

女性意識調査

第3回 「少子化に対する意識・国際比較」

2021年3月

目次

調査概要	2ページ
回答者プロフィール	3ページ
1-1. 少子化の現状についての認識	5ページ
1-2. 少子化の現状に問題があると思う理由	10ページ
1-3. 少子化の現状に問題がないと思う理由	11ページ
1-4. 少子化の要因	12ページ
2-1. 子どもの産みやすさ・育てやすさ	13ページ
2-2. 子どもに掛かる費用	18ページ
2-3. 少子化対策に対する評価	19ページ
2-4. 少子化対策として求めるもの	24ページ
3-1. 理想の子どもの数（1）ご自身	25ページ
3-2. 理想の子どもの数（2）一般的	30ページ
4-1. 婚外子の受容度（1）	35ページ
4-2. 婚外子の受容度（2）	40ページ
5. 少子化対策としての移民受け入れについて	45ページ

調査概要

- 調査対象 日本全国および海外7カ国（下記参照）の18～69歳女性
- 調査手法 インターネット調査
- 調査期間 2021年1月21日（木）～2021年2月3日（水）
- 回収数 以下のとおり1カ国あたり年代別に5つに区分し、各100ssの均等割付で回収。

	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	合計
日本	100	100	100	100	100	500
アメリカ	100	100	100	100	100	500
中国	100	100	100	100	100	500
韓国	100	100	100	100	100	500
フランス	100	100	100	100	100	500
イタリア	100	100	100	100	100	500
スウェーデン	100	100	100	100	100	500
デンマーク	100	100	100	100	100	500
合計	800	800	800	800	800	4000

回答者プロフィール (1)

◎お住まい (日本は47都道府県、その他は大都市圏・それ以外で聴取) 構成比 (%)

	北海道・東北	首都圏	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	大都市圏	それ以外
日本	8.6	42.6	14.0	20.4	8.8	5.6	-	-
アメリカ	-	-	-	-	-	-	48.0	52.0
中国	-	-	-	-	-	-	90.2	9.8
韓国	-	-	-	-	-	-	79.4	20.6
フランス	-	-	-	-	-	-	75.4	24.6
イタリア	-	-	-	-	-	-	67.2	32.8
スウェーデン	-	-	-	-	-	-	47.8	52.2
デンマーク	-	-	-	-	-	-	50.6	49.4

※日本・居住エリア内訳

北海道・東北	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
首都圏	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
中部	新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国・四国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

◎最終学歴 構成比 (%)

	中学校	高等学校	短大・高専・専門	大学学部	修士・博士前期・専門職大学院	博士後期	その他
日本	2.4	19.4	33.4	41.2	2.4	0.4	0.8
アメリカ	1.0	25.4	24.0	26.8	16.2	5.4	1.2
中国	1.2	8.2	17.8	62.8	8.8	1.0	0.2
韓国	2.6	25.8	12.4	51.8	4.8	2.4	0.2
フランス	6.6	27.2	23.8	23.8	14.0	1.0	3.6
イタリア	7.8	45.2	8.6	27.4	9.4	1.4	0.2
スウェーデン	6.6	38.4	14.2	28.4	9.8	0.8	1.8
デンマーク	9.8	12.0	32.2	20.4	19.8	1.0	4.8

回答者プロフィール (2)

◎就業状況

構成比 (%)

	お勤め (正規)	お勤め (非正規)	個人経営の 経営主	自由・自営業	主婦	学生	無職	その他
日本	34.4	22.6	1.6	4.0	27.4	2.6	6.8	0.6
アメリカ	35.0	11.4	2.0	6.8	10.0	6.0	18.6	10.2
中国	69.2	2.0	7.8	6.8	3.8	3.6	4.2	2.6
韓国	43.8	6.0	0.6	8.6	25.6	7.6	6.6	1.2
フランス	48.8	9.0	0.6	2.2	8.4	4.2	15.2	11.6
イタリア	31.4	14.4	0.8	7.8	18.0	8.6	10.2	8.8
スウェーデン	34.6	18.6	1.2	2.4	3.4	9.0	10.8	20.0
デンマーク	38.0	12.0	0.2	4.8	5.0	12.0	9.4	18.6

◎家族の状況

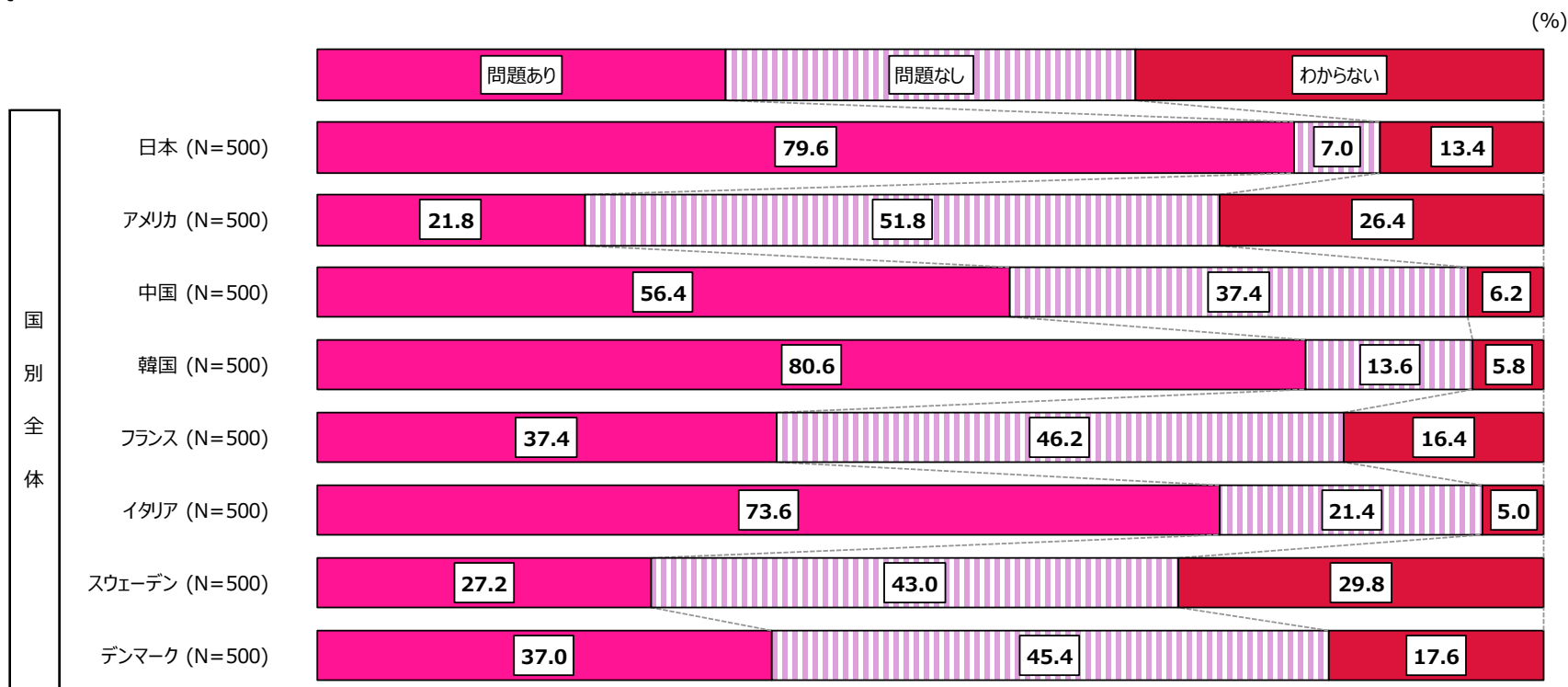
構成比 (%)

	既婚・子どもあり	既婚・子どもなし	事実婚・ 子どもあり	事実婚・ 子どもなし	未婚・子どもあり	未婚・子どもなし
日本	44.4	14.6	0.6	0.6	8.4	31.4
アメリカ	41.6	11.4	4.6	3.8	13.4	25.2
中国	76.4	5.8	2.6	0.2	0.8	14.2
韓国	52.8	6.2	2.4	0.6	1.2	36.8
フランス	36.6	13.0	7.8	9.2	9.6	23.8
イタリア	44.0	8.0	7.0	10.4	7.8	22.8
スウェーデン	24.0	7.0	10.0	10.8	18.0	30.2
デンマーク	31.6	9.4	6.2	5.2	17.6	30.0

1-1. 少子化の現状についての認識 (1)

少子化の現状について「問題あり」の回答が多いのは日本、韓国、イタリアで7～8割を占める。「問題なし」はアメリカで5割を超えるほか、フランス、デンマーク、スウェーデンで45%前後となっており、「問題あり」の割合よりも高くなっている。中国は「問題あり」が5割を超えるが、「問題なし」も4割近い。

Q1. 自国の少子化の現状をどう捉えていますか。(ひとつだけ)

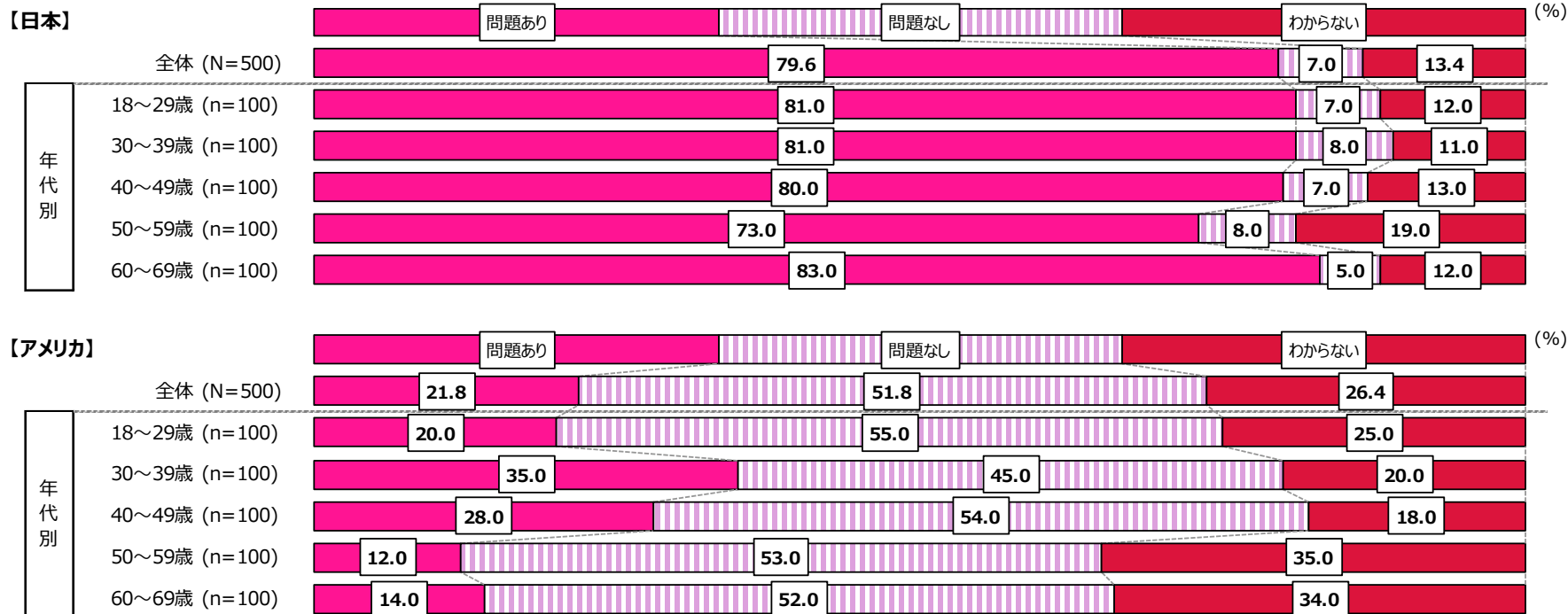


1-1. 少子化の現状についての認識 (2)

国別に少子化の現状について年代別でみた。
日本は各年代で「問題あり」の回答が多く、50代以外では8割を超える。

アメリカはどの年代でも「問題なし」が最多で45～55%を占めるが、30代や40代で「問題あり」の回答が3割前後とやや多くなっている。50代以上では「わからない」の回答が3割以上とやや多い。

Q1. 自国の少子化の現状をどう捉えていますか。(ひとつだけ)

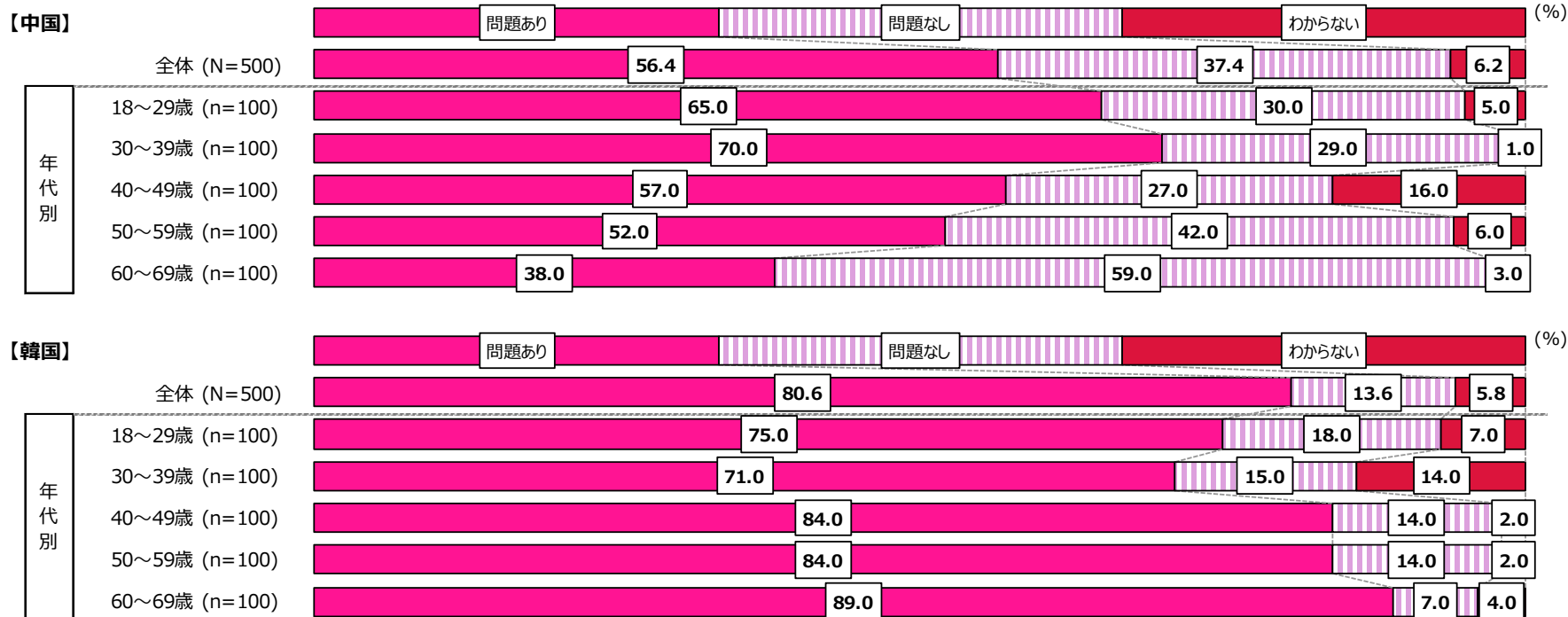


1-1. 少子化の現状についての認識 (3)

中国は若年層ほど「問題あり」の回答が多い傾向がみられ、30代では7割に上る。一方60代では「問題なし」が唯一半数を超え、「問題あり」は4割以下となっている。

韓国は40代以上で「問題あり」の回答が多く、8割を超える。18～29歳や30代では「問題あり」は7割台で、「問題なし」が15～18%と40代以上に比べて多めとなっている。

Q1. 自国の少子化の現状をどう捉えていますか。(ひとつだけ)

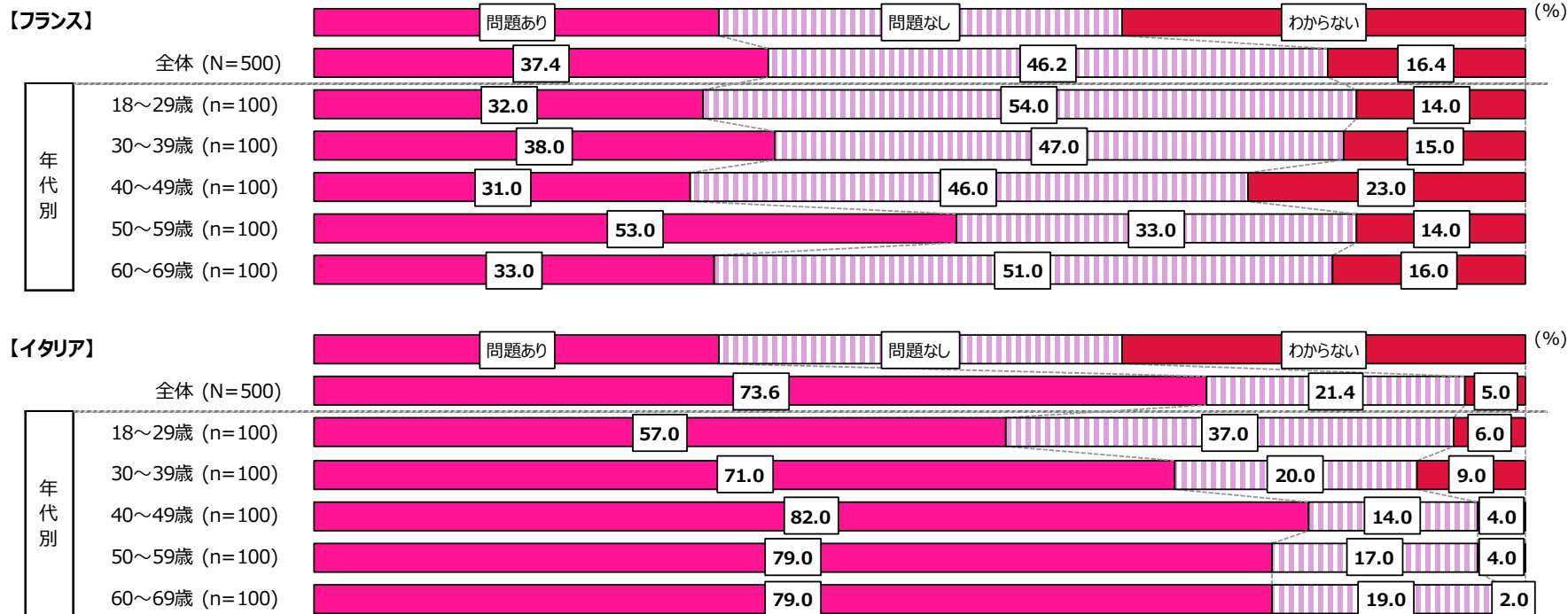


1-1. 少子化の現状についての認識 (4)

フランスでは50代のみ「問題あり」が5割を超える。その他の年代では「問題あり」は4割を下回り、「問題なし」が5割前後と多い。

イタリアは40代以上で「問題あり」が8割前後と多く、「問題なし」は2割未満となっている。18～29歳では「問題あり」は6割未満と少なく、「問題なし」が4割近くを占める。30代は「問題あり」が7割強とやや高くなり、「問題なし」が2割。18～29歳や30代では「わからない」の回答がやや多い。

Q1. 自国の少子化の現状をどう捉えていますか。(ひとつだけ)

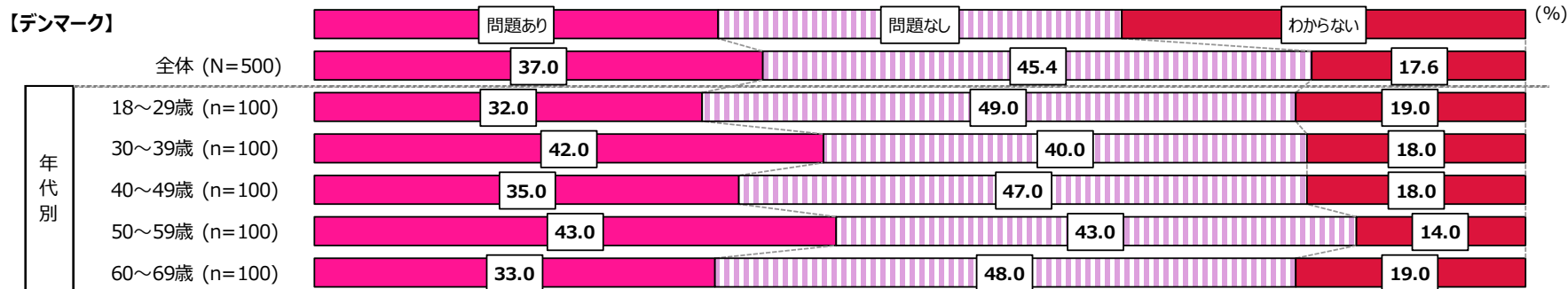
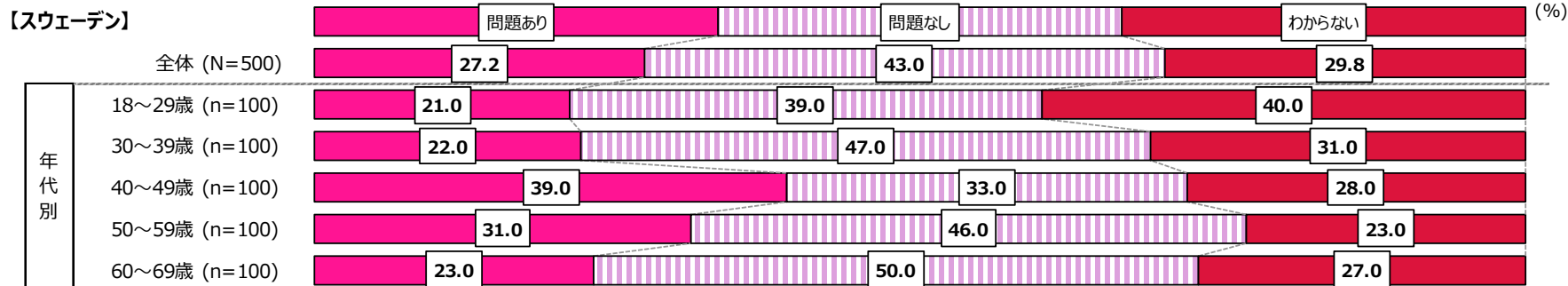


1-1. 少子化の現状についての認識 (5)

スウェーデンでは40代のみ「問題あり」の回答が多くなったが、その他の年代では「問題なし」の方が多く、60代では5割を占める。いずれの年代も「わからない」の回答が多く、若年層では3~4割を占める。

デンマークでは30代と50代で「問題あり」の回答が4割以上と多く、「問題なし」と拮抗した割合となっている。その他の年代では「問題あり」は3割台にとどまり、「問題なし」が5割近い。

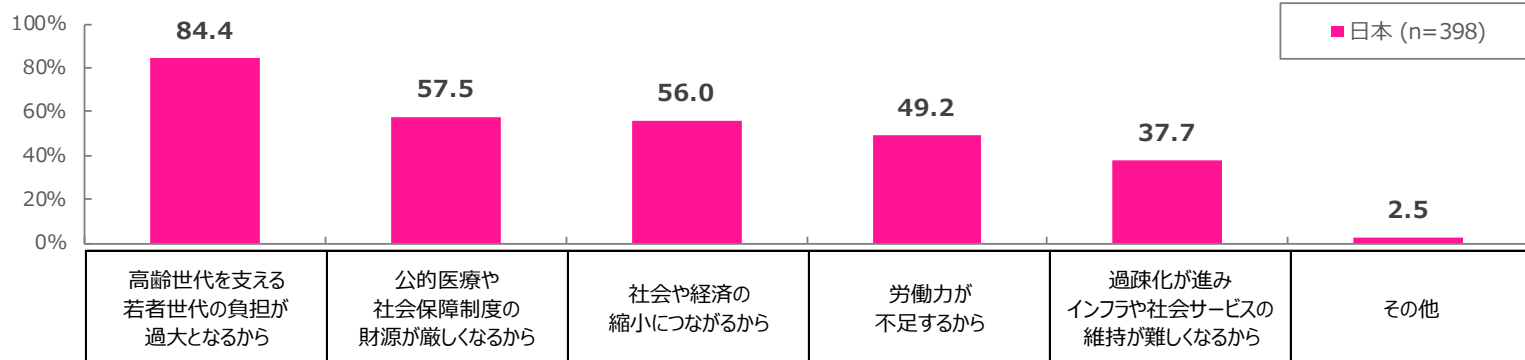
Q1. 自国の少子化の現状をどう捉えていますか。(ひとつだけ)



1-2. 少子化の現状に問題があると思う理由

問題があると思う理由をみると、各国とも「高齢世代を支える若者世代の負担が過大となるから」が最多で、日本では8割を超え、中国、韓国でも7割を超える。
次いで日本では「公的医療や社会保障制度の財源が厳しくなるから」「社会や経済の縮小につながるから」と続くが、中国やアメリカでは「過疎化が進みインフラや社会サービスの維持が難しくなるから」、デンマークでは「労働力が不足するから」の方がそれぞれ多く挙げられている。

Q2. (問題ありと回答した人) なぜそう思いますか。(いくつでも)



国別全体	理由	日本 (n=398)	アメリカ (n=109)	中国 (n=282)	韓国 (n=403)	フランス (n=187)	イタリア (n=368)	スウェーデン (n=136)	デンマーク (n=185)
		高齢世代を支える若者世代の負担が過大となるから	84.4	64.2	74.1	73.9	63.1	65.2	57.4
	公的医療や社会保障制度の財源が厳しくなるから	57.5	45.9	54.3	36.0	46.0	28.3	50.7	41.1
	社会や経済の縮小につながるから	56.0	41.3	50.4	62.3	37.4	52.7	34.6	46.5
	労働力が不足するから	49.2	39.4	61.7	43.9	30.5	13.6	39.0	56.2
	過疎化が進みインフラや社会サービスの維持が難しくなるから	37.7	48.6	62.1	27.5	32.6	35.1	37.5	34.6
	その他	2.5	3.7	0.7	3.0	3.2	3.3	9.6	4.9

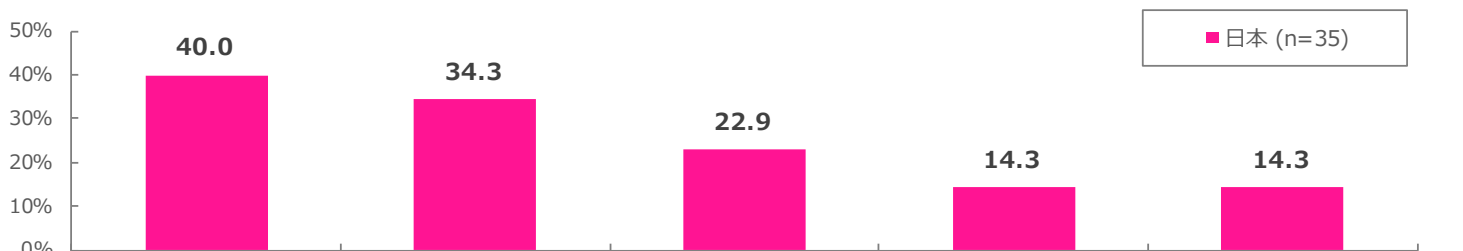
※左から日本のスコアの高い順（その他除く）に掲載

■ : それぞれの国で1位 ■ : 2位 ■ : 3位

1-3. 少子化の現状に問題がないと思う理由

問題がないと思う理由をみると、日本では「現在の人口が過大だと思うから」「労働力の不足はAIなどでカバーできるから」「自国の少子化はそこまで深刻ではないから」が上位3項目。
 韓国、フランス、イタリアも「現在の人口が過大だと思うから」が、アメリカ、中国、スウェーデン、デンマークでは「自国の少子化はそこまで深刻ではないから」がそれぞれ最多となっている。中国や韓国では日本と同様「労働力の不足はAIなどでカバーできるから」が3割以上と多い。

Q3. (問題なしと回答した人) なぜそう思いますか。(いくつでも)



		現在の人口が過大だと思うから	労働力の不足はAIなどでカバーできるから	自国の少子化はそこまで深刻ではないから	移民政策で一定の調整が可能だから	その他	(%)
国別全体	日本 (n=35)	40.0	34.3	22.9	14.3	14.3	
	アメリカ (n=259)	50.2	17.4	52.1	23.6	5.4	
	中国 (n=187)	46.5	35.8	49.7	35.3	3.2	
	韓国 (n=68)	60.3	30.9	17.6	19.1	16.2	
	フランス (n=231)	60.2	11.3	34.2	19.0	4.3	
	イタリア (n=107)	51.4	12.1	29.0	22.4	6.5	
	スウェーデン (n=215)	33.5	15.8	46.0	31.6	5.1	
	デンマーク (n=227)	36.6	19.4	56.8	17.6	5.7	

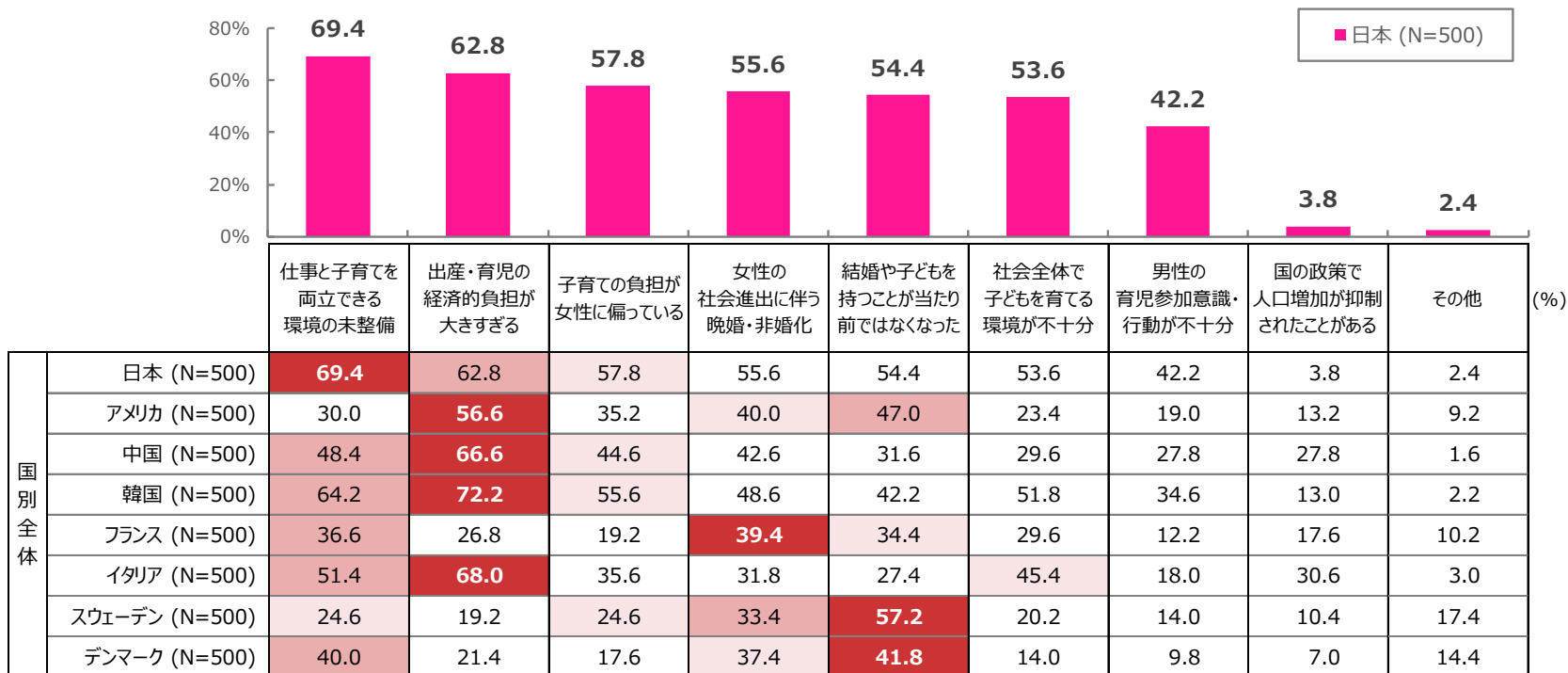
※左から日本のスコアの高い順 (その他除く) に掲載

■ : それぞれの国で1位 ■ : 2位 ■ : 3位

1-4. 少子化の要因

少子化の要因についてみると、日本では「仕事と子育てを両立できる環境の未整備」が約7割に達し、次いで「出産・育児の経済的負担が大きすぎる」が6割以上。アメリカ、中国、韓国、イタリアでは「出産・育児の経済的負担が大きすぎる」が、フランスでは「女性の社会進出に伴う晩婚・非婚化」、スウェーデンとデンマークでは「結婚や子供を持つことが当たり前ではなくなった」がそれぞれ最多となっている。日本で多く挙げられた上位4項目は韓国や中国でも比較的多く挙げられているが、フランスやスウェーデン、デンマークとはスコア差が大きく、社会構造の違いが顕著といえる。「出産・育児の経済的負担が大きすぎる」はアメリカ、中国、韓国、イタリアでも多く挙げられ、日本と同様となっている。

Q4. 自国の少子化現象は何が原因だと考えますか。(いくつでも)



※左から日本のスコアの高い順（その他除く）に掲載

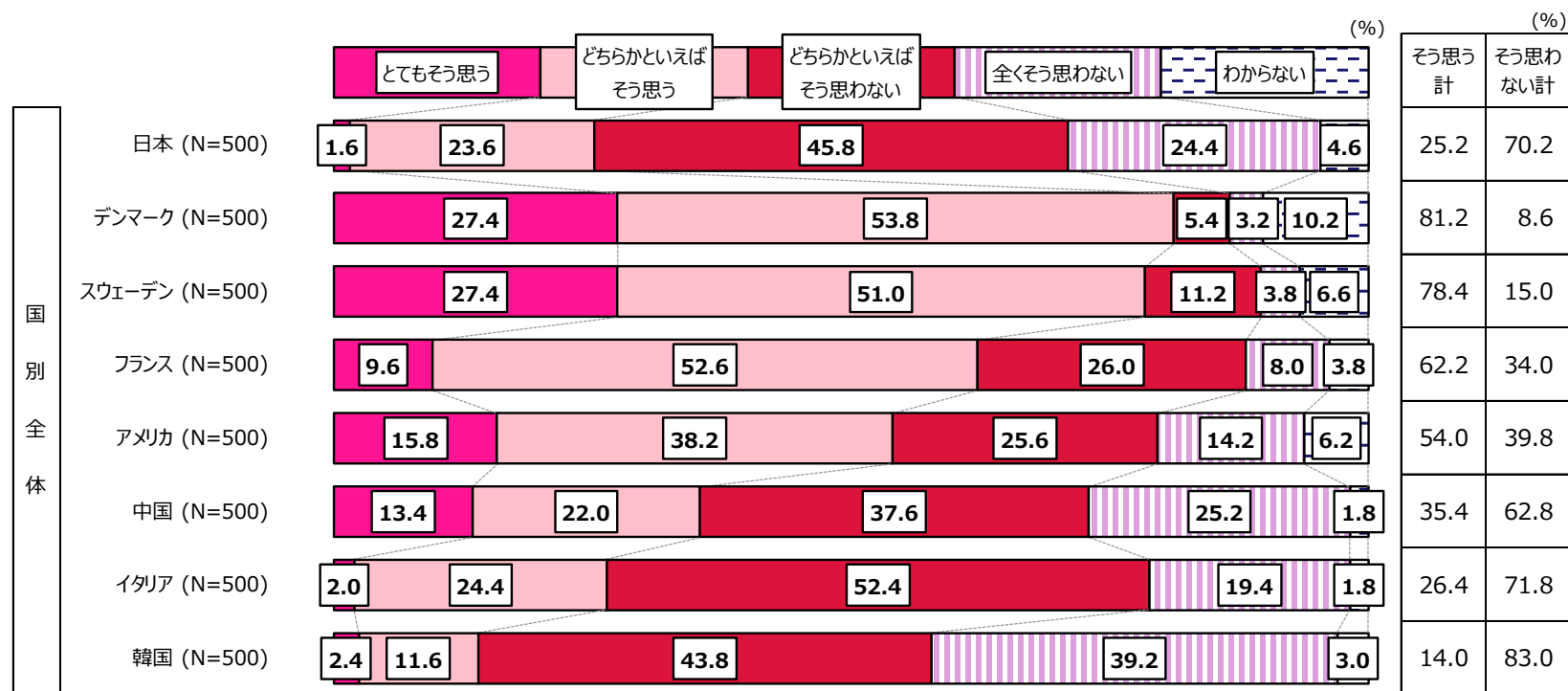
■ : それぞれの国で1位 □ : 2位 □ : 3位

2-1. 子どもの産みやすさ・育てやすさ (1)

子どもの産みやすさ・育てやすさについてみると、日本では「そう思わない計」が70%にのぼり、否定的な回答が圧倒的多数を占める。これはイタリアも同様で、日本の回答とほぼ同じとなっている。また韓国はさらに否定的な回答が多く、8割以上に上る。中でも「全くそう思わない」の回答が約4割と高いが目立つ。

一方「そう思う計」が高いのはデンマーク、スウェーデンで8割前後に上る。「そう思わない計」は1割程度にとどまり、評価の高さがみてとれる。フランス、アメリカは「そう思う計」が5～6割以上で、「そう思わない計」は4割以下。中国では「どちらかといえばそう思わない」が4割弱と多く、否定的な回答が6割以上に上る。

Q5. あなたの国は子どもを産み育てやすい国だと思いますか。(ひとつだけ)



※日本以外の国は「そう思う計」の高い順に掲載

※「そう思う計」: 「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

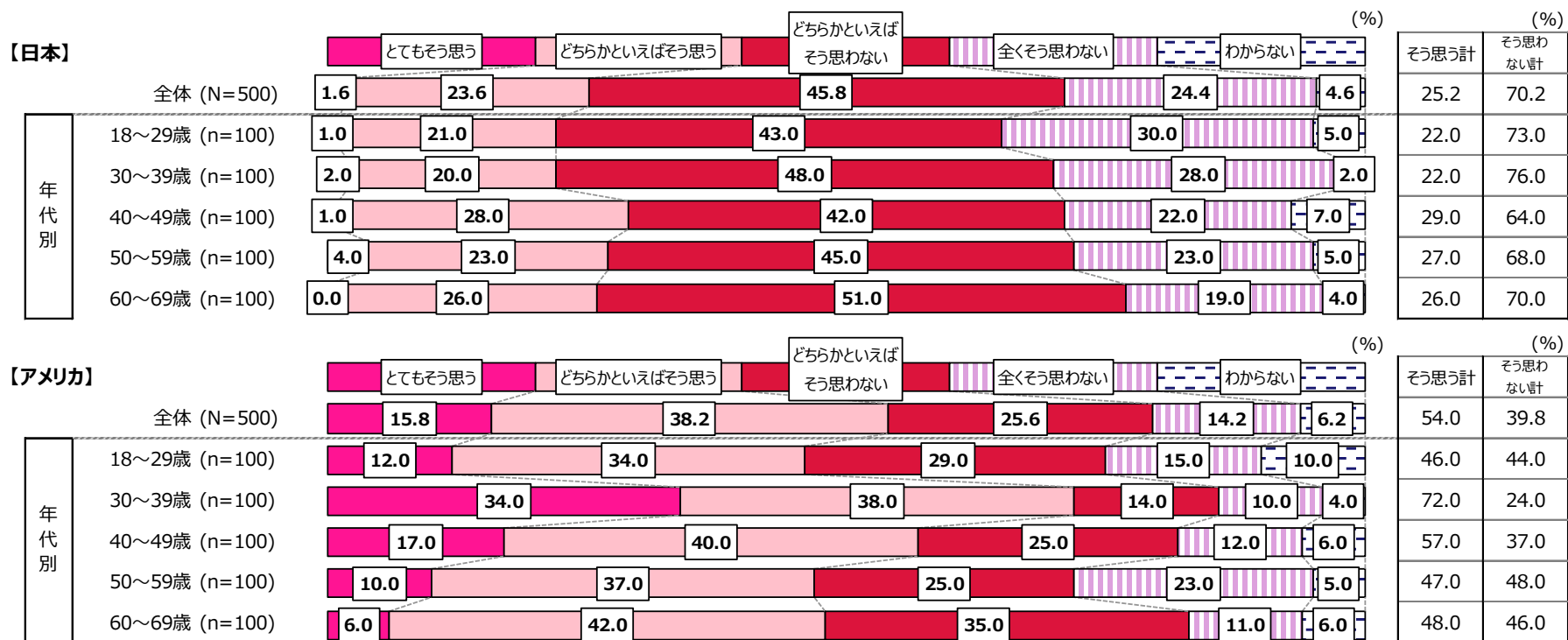
※「そう思わない計」: 「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の合計

2-1.子どもの産みやすさ・育てやすさ (2)

子どもの産みやすさ・育てやすさについて国別・年代別でみると、日本では30歳代以下で「そう思わない計」が75%前後と高いのが目立つ。中でも18～29歳では「全くそう思わない」が3割を占める。

アメリカでは30代で「そう思う計」が高く、72%となっている。「とてもそう思う」が34%を占め、他の年代に比べて非常に高くなっている。同じ若年層でも18～29歳では「そう思う計」と「そう思わない計」がともに45%程度となっており、意見が分かれている。

Q5.あなたの国は子どもを産み育てやすい国だと思いますか。(ひとつだけ)



※「そう思う計」：「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

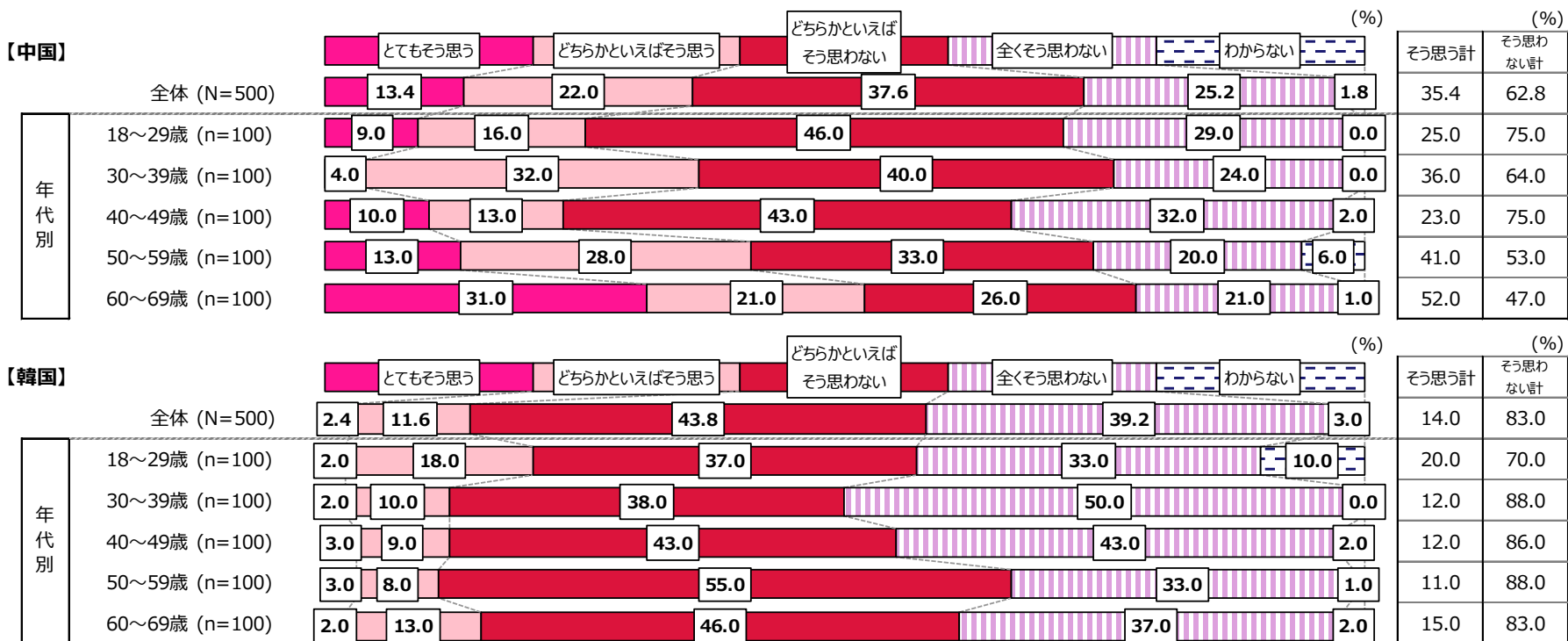
※「そう思わない計」：「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の合計

2-1.子どもの産みやすさ・育てやすさ (3)

中国では60代では「そう思う計」が5割を超えるが、その他の年代はいずれも「そう思わない計」の方が高く、18～29歳や40代では75%、30代では64%と高い。中でも40代は「全くそう思わない」が3割以上を占める。

韓国ではいずれの年代でも「そう思わない計」が高く、30代以上では85%前後にのぼる。「そう思う計」は11～15%にとどまり、最も高い18～29歳でも20%にとどまる。30代では半数が「全くそう思わない」と回答している。

Q5.あなたの国は子どもを産み育てやすい国だと思いますか。(ひとつだけ)



※「そう思う計」：「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

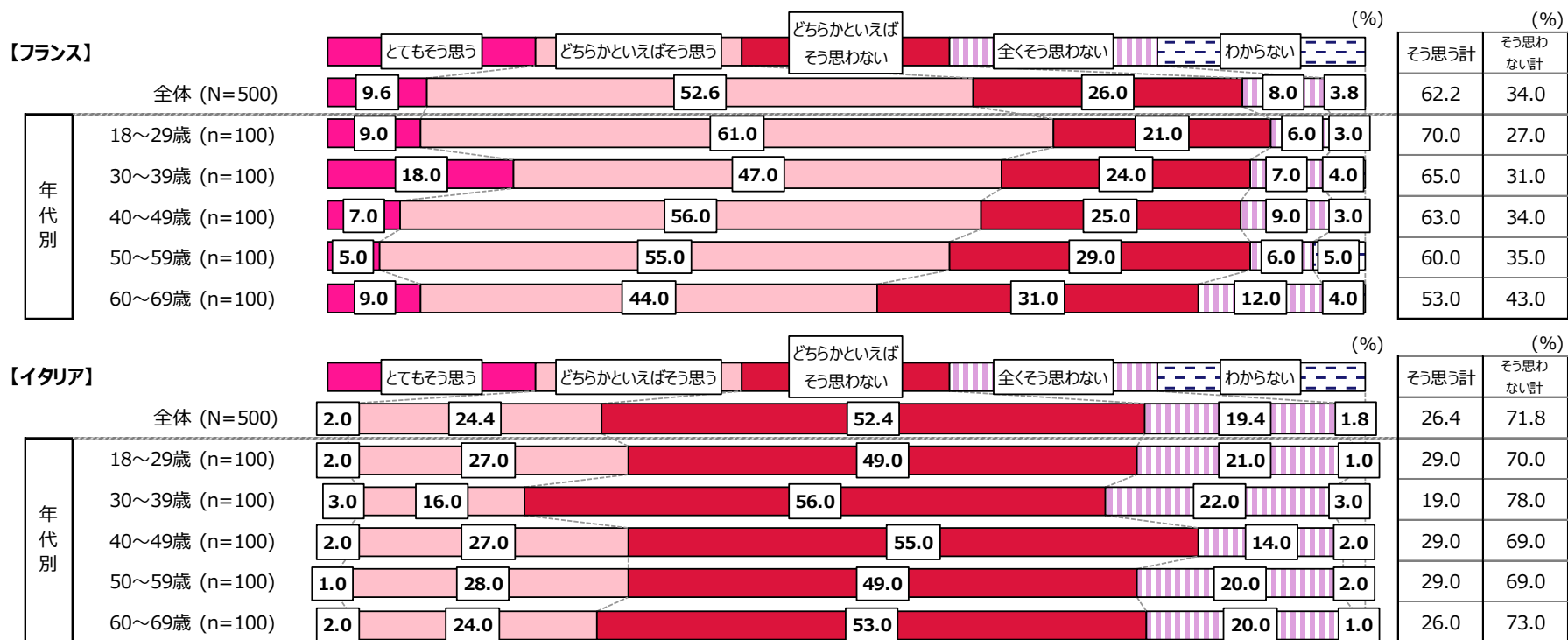
※「そう思わない計」：「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の合計

2-1.子どもの産みやすさ・育てやすさ (4)

フランスでは若年層ほど「そう思う計」が高く、18～29歳では70%に達する。60代では53%にとどまり、「そう思わない計」が4割以上となっている。大半が「どちらかといえばそう思う」の回答となっており、「とてもそう思う」は30代を除いて10%未満となっている。

イタリアではいずれの年代でも「そう思わない計」が高く、30代で78%、どの他の年代では70%前後となっている。30代では「そう思う計」も2割に満たない。

Q5.あなたの国は子どもを産み育てやすい国だと思いますか。(ひとつだけ)



※「そう思う計」：「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

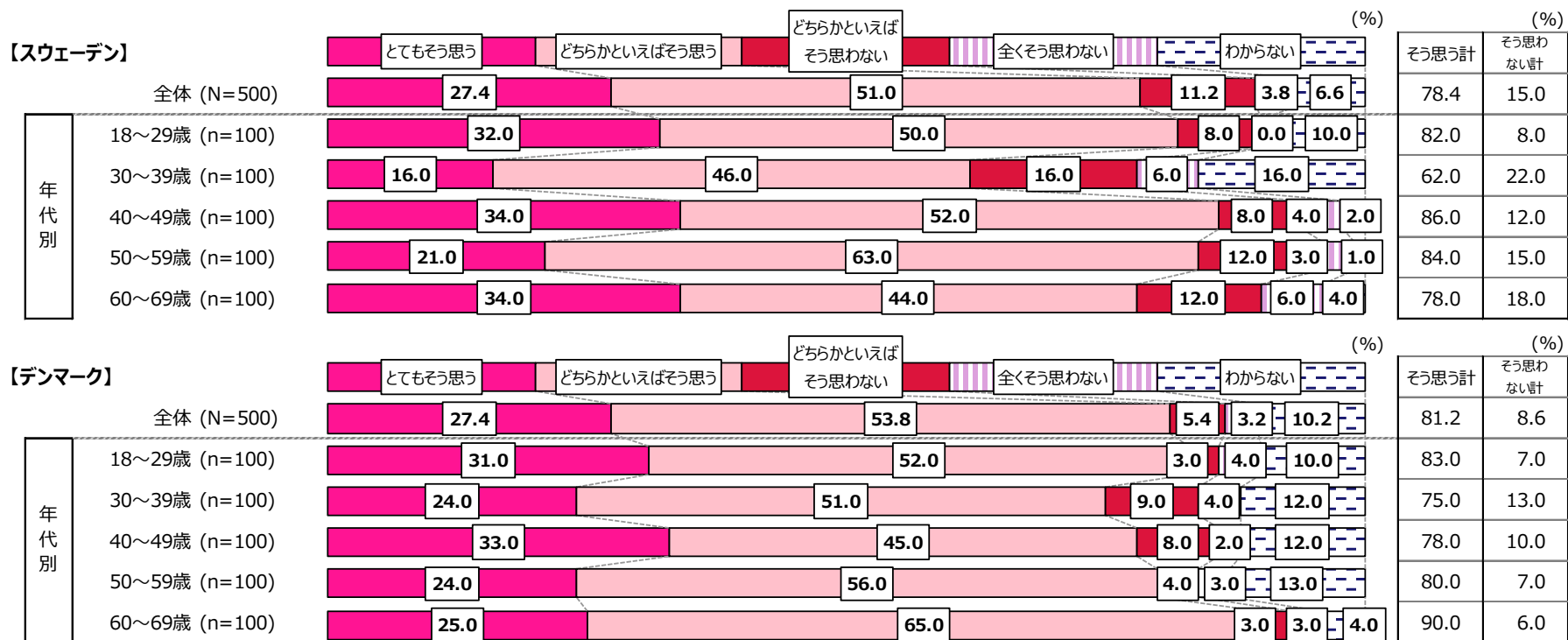
※「そう思わない計」：「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の合計

2-1.子どもの産みやすさ・育てやすさ (5)

スウェーデンでは30代で「そう思う計」が6割台とやや低くなったが、その他の年代では8割前後と高く、「そう思わない計」は1～2割程度となっている。30代以下では「わからない」の回答が他の年代に比べてやや多い。

デンマークではいずれの年代でも「そう思う計」が高く、50代以下では8割前後、60代では9割に上る。30代と40代では「そう思わない計」が10%以上とやや高いが、その他の年代では6～7%と低い。

Q5.あなたの国は子どもを産み育てやすい国だと思いますか。(ひとつだけ)



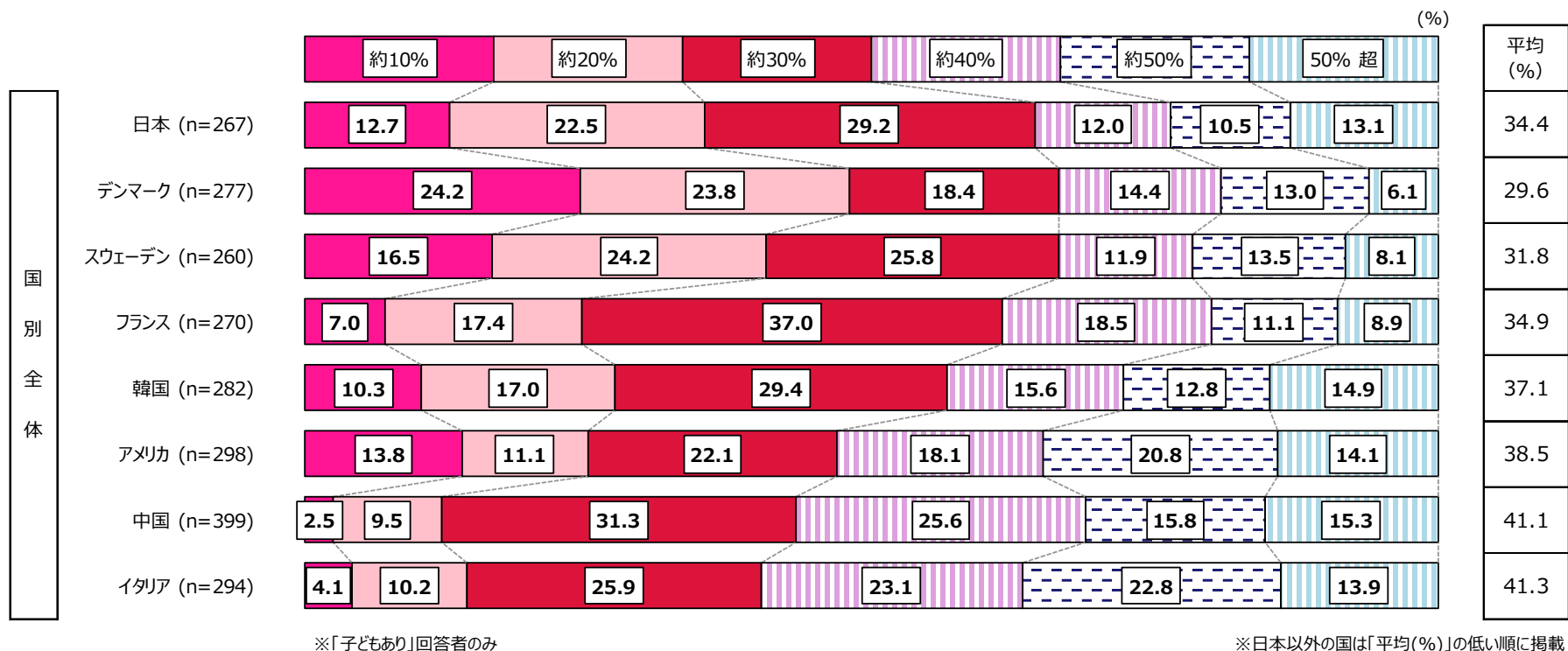
※「そう思う計」：「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

※「そう思わない計」：「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の合計

2-2.子どもに掛かる費用

子どもに掛かる費用をみると、日本では平均34.4%で、フランス(34.9%)と同程度。韓国、アメリカ、中国、イタリアでは平均4割前後にのぼる。デンマーク、スウェーデンは30%程度で、日本と比べても大差はないが、両国とも「約10%」や「約20%」の回答が4~5割を占め、日本より多い。

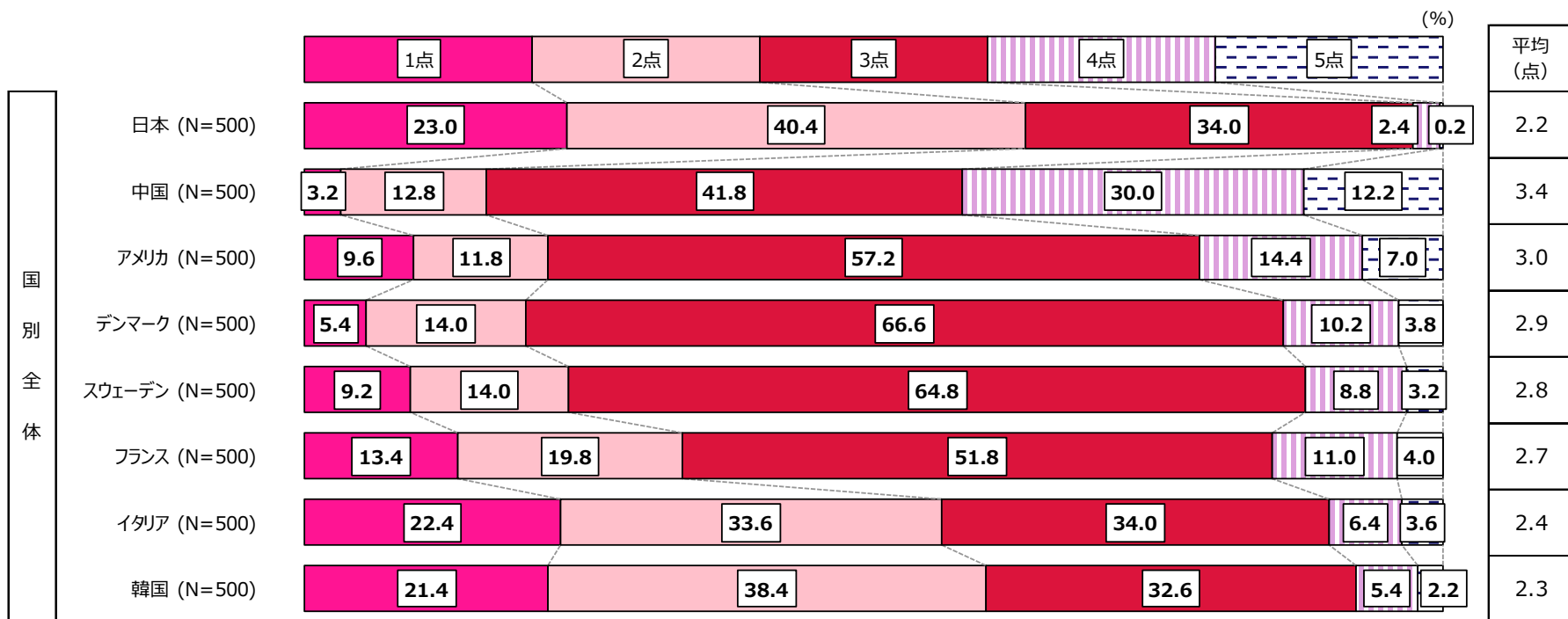
Q9.家計の中で、子どもに掛かる費用はどの程度の比率を占めていますか。(ひとつだけ)



2-3. 少子化対策に対する評価 (1)

自国の少子化対策に対する評価をみると、日本は「2点」を中心に「1点」から「3点」までの回答でほぼ100%を占め、平均は2.2点で8か国中最も低い。
 平均点が最も高いのは中国で「3点」や「4点」の回答が7割を超える。「5点」も1割以上となっており、平均は3.4点。アメリカも平均3.0点と、中国に次いで高い。
 「子どもを産み、育てやすい」の評価が高いデンマークやスウェーデンは「3点」が65%前後と高く、平均は2.8～2.9点。フランスは2.7点。イタリア、韓国は日本と同様「1点」～「3点」の回答が多く、9割を占める。平均点は日本よりやや高い2.3～2.4点となっている。

Q6. 自国の少子化対策に対する評価は5点満点で何点ですか。(ひとつだけ)



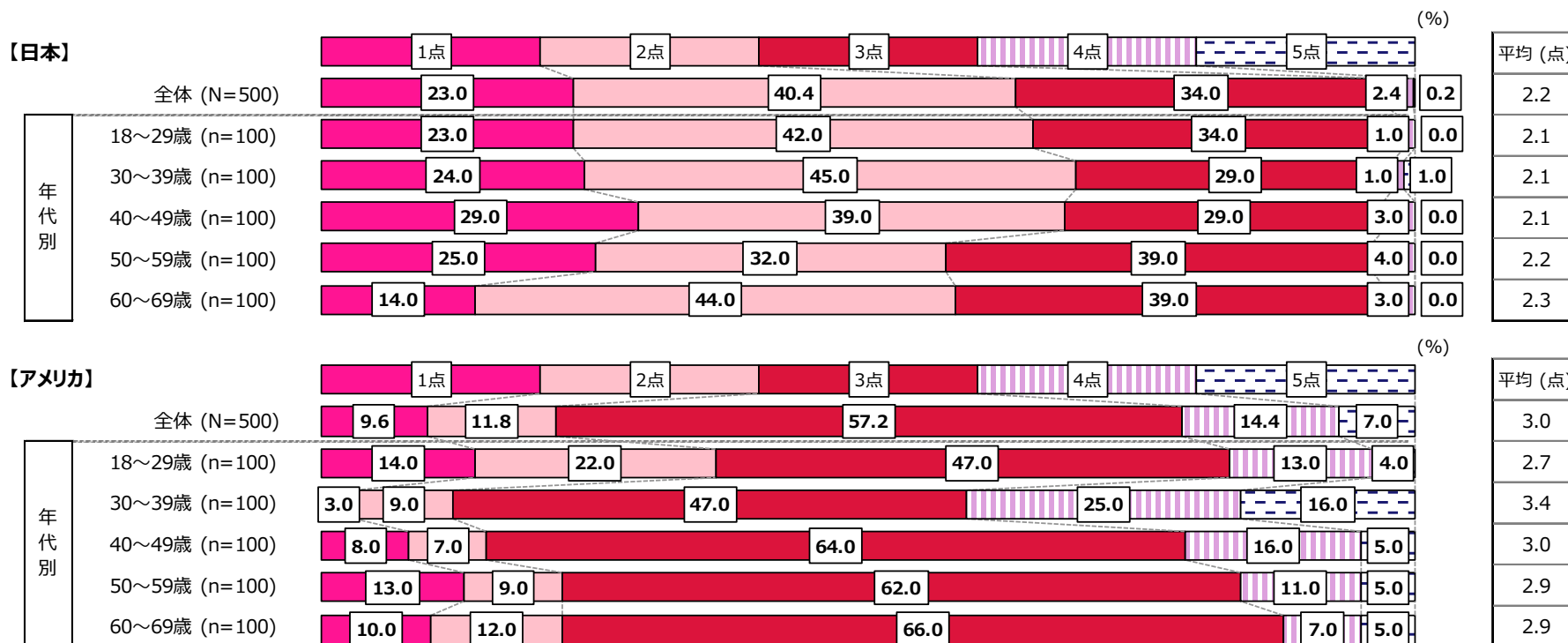
※日本以外の国は「平均点」の高い順に掲載

2-3. 少子化対策に対する評価 (2)

日本の年代別でみると、50代以上で「3点」が4割弱と多く、平均点もやや高くなったが、40代以下では「1点」～「2点」が65～69%と多く平均点も2.1点と全体の平均点を下回る。

アメリカではすべての年代で「3点」の回答が最多となったが、30代では「4点」(25%)や「5点」(16%)の回答が多く、平均点も3.4点にのぼる。ただし18～29歳では「2点」以下の回答が多く、平均も2.7点と最も低い。

Q6. 自国の少子化対策に対する評価は5点満点で何点ですか。(ひとつだけ)

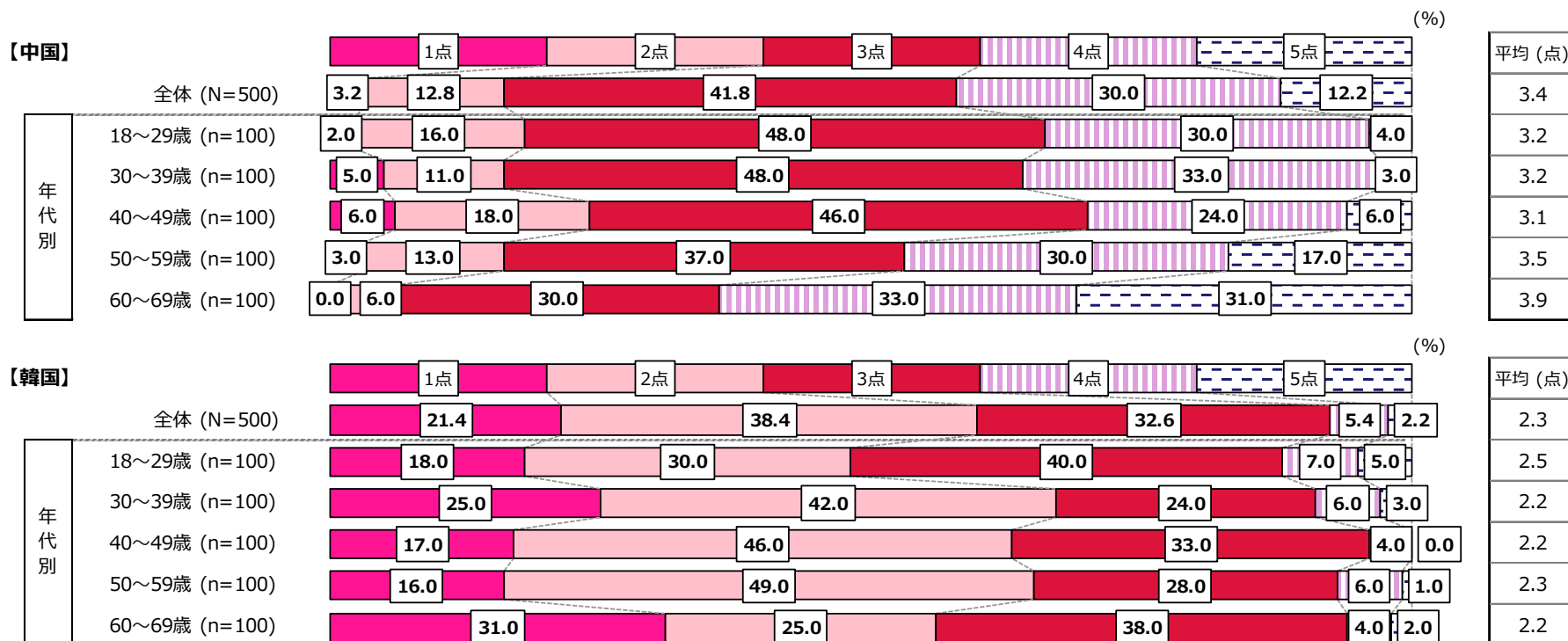


2-3. 少子化対策に対する評価 (3)

中国では、50代以上で「4点」や「5点」の回答が多く、平均も3.5点以上と高いが、40代以下では「3点」以下が6割強～7割を占める。平均も3.1～3.2点と全体を下回る水準。

韓国では18～29歳で「3点」の回答が4割と多く、平均も2.5点と最も高い。30～50代では「2点」が多く、4割以上を占める。60代は「3点」と「1点」がともに3割台で、評価が分かれる結果となっている。

Q6. 自国の少子化対策に対する評価は5点満点で何点ですか。(ひとつだけ)

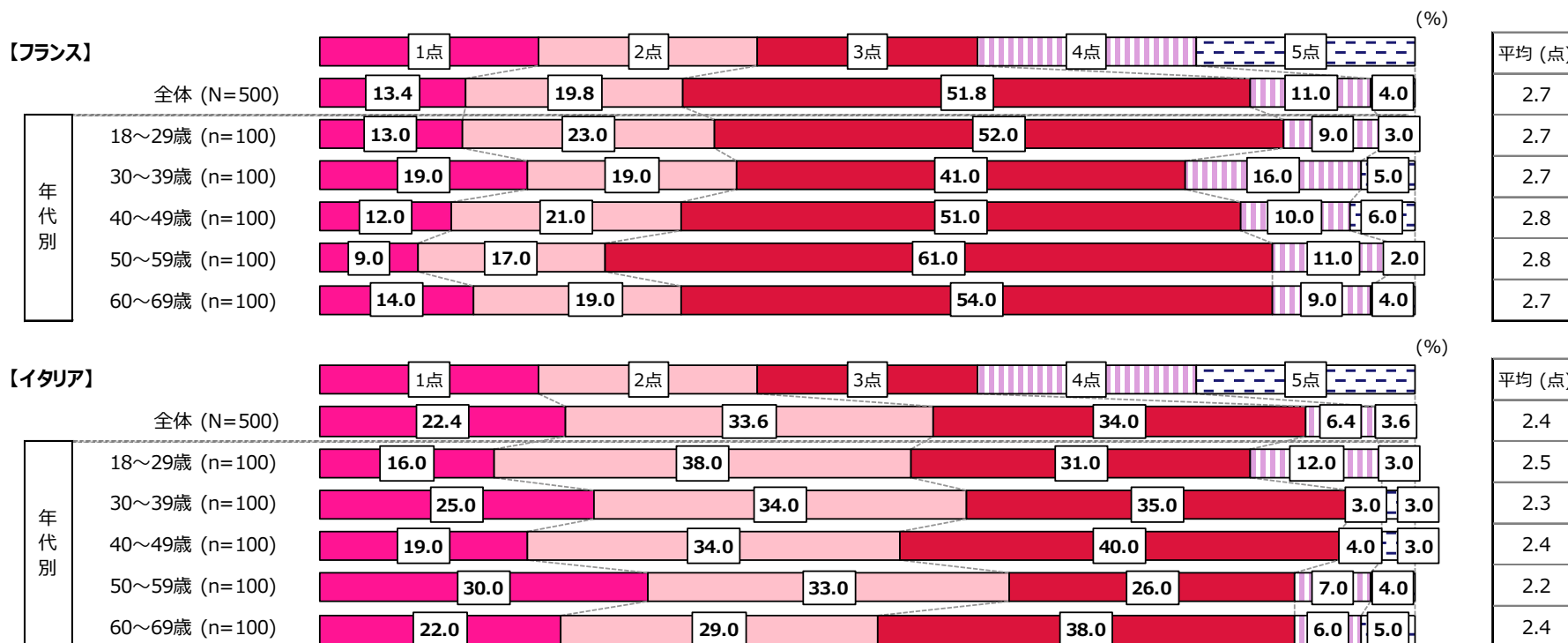


2-3. 少子化対策に対する評価 (4)

フランスでは、いずれの年代も「3点」が最多で、18～29歳や40代、60代では5割台、50代では6割を超える。30代は「4点」や「5点」の回答が多くなっている。平均はどの年代も2.7点以上で、40代と50代では2.8点とやや高い。

イタリアでは18～29歳で「4点」や「5点」の回答が比較的多く、平均は2.5点と最も高い。30～40代と60代では「3点」、50代では「2点」の回答が多い。

Q6. 自国の少子化対策に対する評価は5点満点で何点ですか。(ひとつだけ)

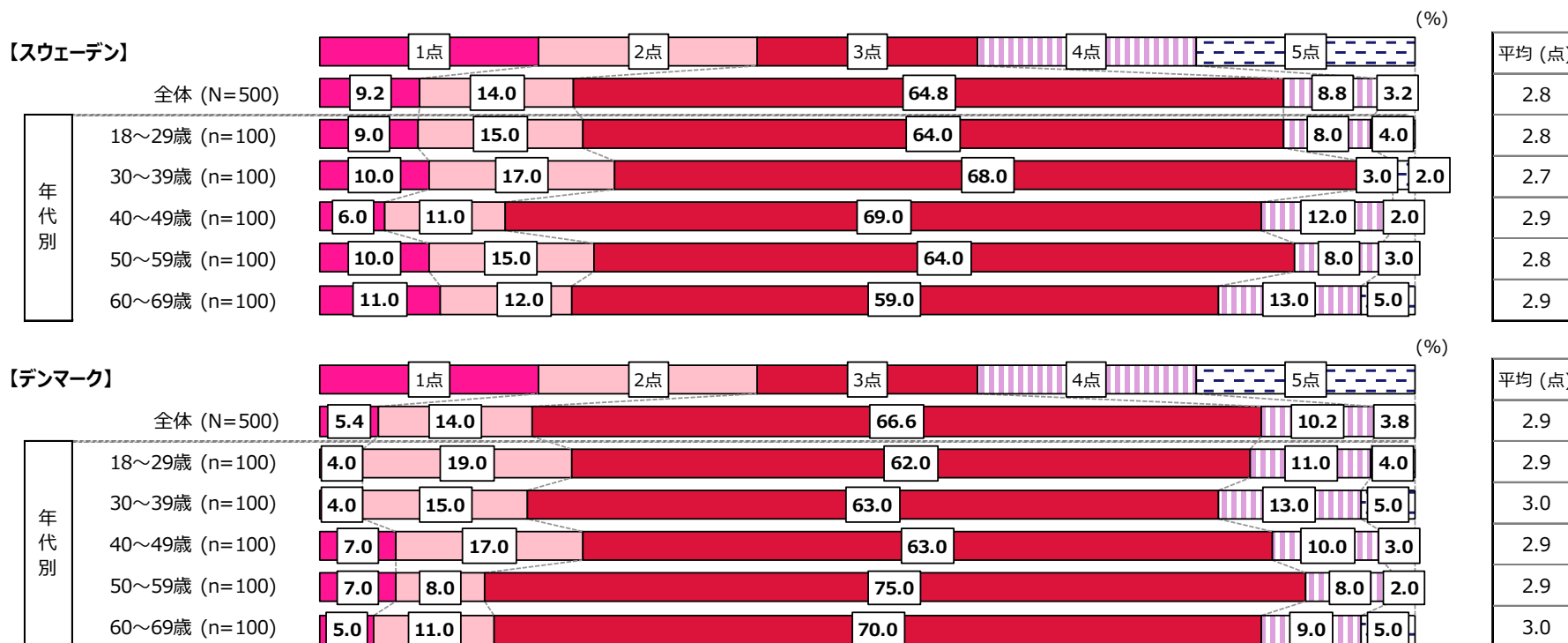


2-3. 少子化対策に対する評価 (5)

スウェーデンでは、いずれの年代も「3点」が最多で、6～7割を占める。60代では「4点」や「5点」の回答も合計2割弱と多い。平均は30代ではやや低く2.7点。40代や60代では2.9点となっている。

デンマークでも「3点」の回答が6～7割以上を占め、「4点」や「5点」の回答も30代以下を中心に多い。平均も2.9～3.0点と高水準。

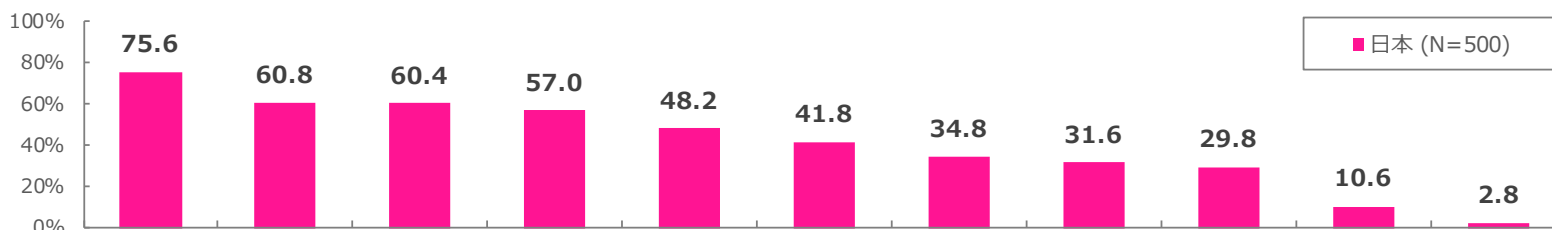
Q6. 自国の少子化対策に対する評価は5点満点で何点ですか。(ひとつだけ)



2-4. 少子化対策として求めるもの

少子化対策としてニーズが高いのは「働きやすい環境（フレックスタイム制、テレワークなど）の整備」を筆頭に、「出産、子育て費用に対する公的支援」「従業員の出産・育児に対する企業の取り組み強化」「妊娠期から就学終了までの子育て支援」が上位に並ぶ。日本とイタリアでは「働きやすい環境（フレックスタイム制、テレワークなど）の整備」が7割以上と高く、中国を除く各国もこの点を挙げる人が5～6割と最も多い。中国では「出産、子育て費用に対する公的支援」が最多、次いで「多子加算を適用した児童手当制度」が続く。スウェーデンでは「家事・育児に対する男性の協力強化」が2番目に多い。

Q7. どのような少子化対策を求めますか。（いくつでも）



		働きやすい環境(フレックスタイム制、テレワークなどの整備)	出産、子育て費用に対する公的支援	従業員の出産・育児に対する企業の取り組み強化	妊娠期から就学終了までの子育て支援	家事・育児に対する男性の協力強化	不妊治療費の全額支給等の公的支援	父親の育児休暇取得の義務付け	多子加算を適用した児童手当制度	子ども数に応じた年金加算	2・3世代同居・近居の推進	その他
国別全体	日本 (N=500)	75.6	60.8	60.4	57.0	48.2	41.8	34.8	31.6	29.8	10.6	2.8
	アメリカ (N=500)	45.6	32.2	38.0	28.6	33.6	20.4	34.8	36.6	19.0	17.0	14.6
	中国 (N=500)	47.0	52.2	48.2	41.8	34.8	29.6	35.4	49.6	38.2	20.2	2.4
	韓国 (N=500)	61.6	55.0	40.2	49.2	48.0	24.4	34.8	31.0	29.2	12.4	6.0
	フランス (N=500)	50.8	18.6	38.4	22.4	29.8	23.2	33.8	35.0	22.8	11.6	9.6
	イタリア (N=500)	71.2	63.2	48.8	29.8	26.0	27.6	31.6	50.2	28.6	9.0	3.8
	スウェーデン (N=500)	49.0	29.6	23.2	22.4	34.8	25.8	19.8	23.6	22.2	13.2	16.4
	デンマーク (N=500)	51.0	23.8	28.8	12.6	23.4	26.0	27.2	28.0	12.4	14.0	16.4

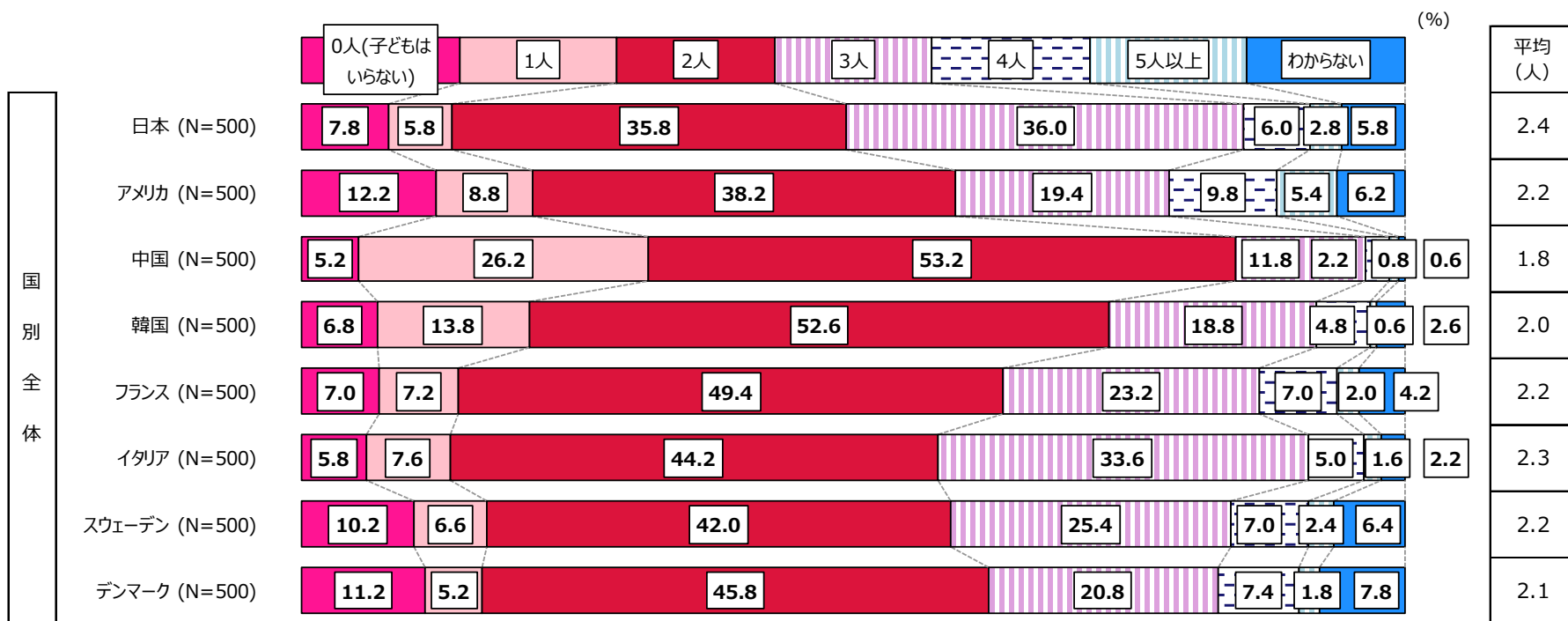
※左から日本のスコアの高い順（その他除く）に掲載

■ : それぞれの国で1位 ■ : 2位 ■ : 3位

3-1.理想の子どもの数 (1) ご自身 ①

自分の理想の子どもの数についてみると、日本では「3人」「2人」がともに36%と多く、平均は2.4人で8か国中最多となっている。次いで平均人数が多いのはイタリアの2.3人で、「子どもを産み育てやすい」の評価が低い日本とイタリアでは「3人」が3割を超える。一方、最も少ないのは中国で、「1人」が2割を超えて他の国の割合を大きく上回り、平均人数が1.8人と唯一2人を切る。次いで平均人数が少ないのは韓国の2.0人で、中国と韓国では「2人」が5割強を占める。

Q8.あなたが自由に子どもを持ち、育てられるとしたら子どもの数は何人が理想ですか。(ひとつだけ)

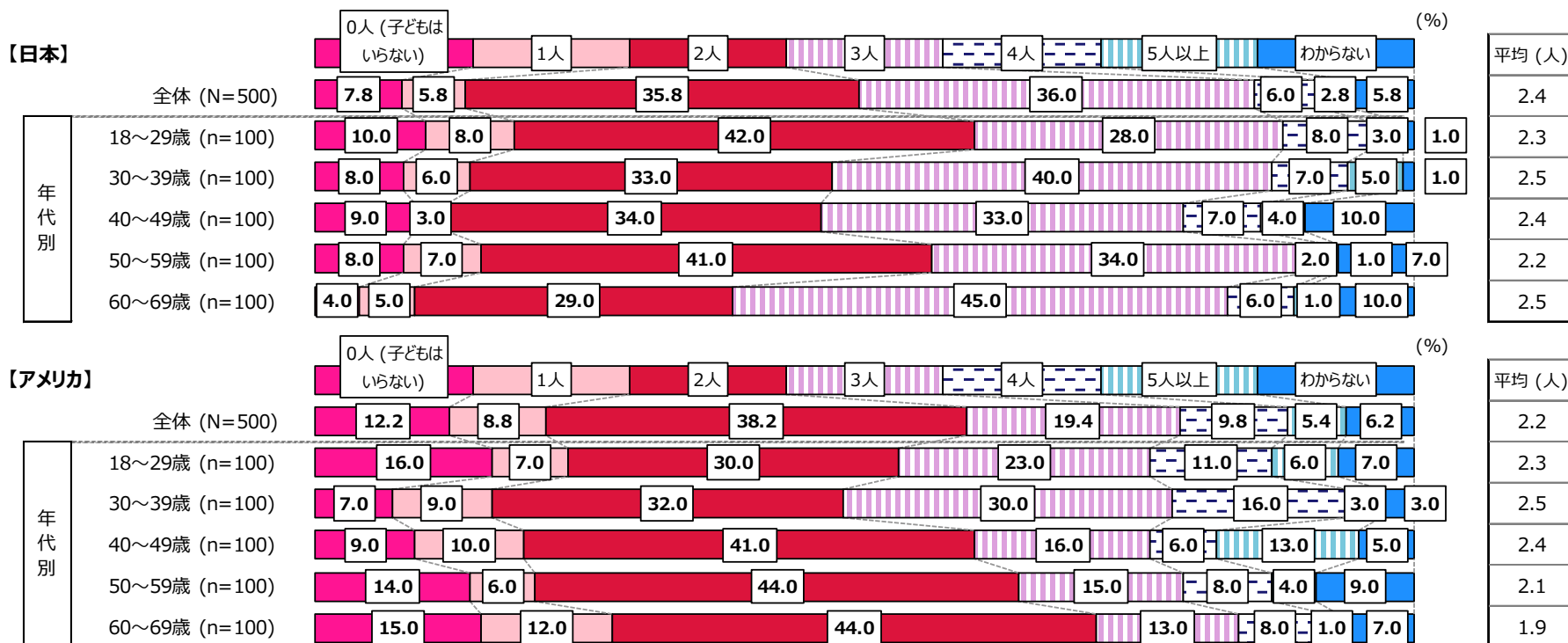


3-1.理想の子どもの数 (1) ご自身 ②

国別・年代別で見ると、日本では30代と60代で「3人」が4割以上と多く、平均が2.5人とやや多くなっている。18～29歳と50代では「2人」が4割強で、平均が2.2～2.3人とやや少ない。

アメリカではすべての年代で「2人」の回答が最多となったが、30代では「2人」と「3人」がともに3割程度と僅差で、平均が2.5人と最も多い。30代以上では年代が高いほど理想とする子どもの人数が少なくなり、60代では平均が2人を下回る。

Q8.あなたが自由に子どもを持ち、育てられるとしたら子どもの数は何人が理想ですか。(ひとつだけ)

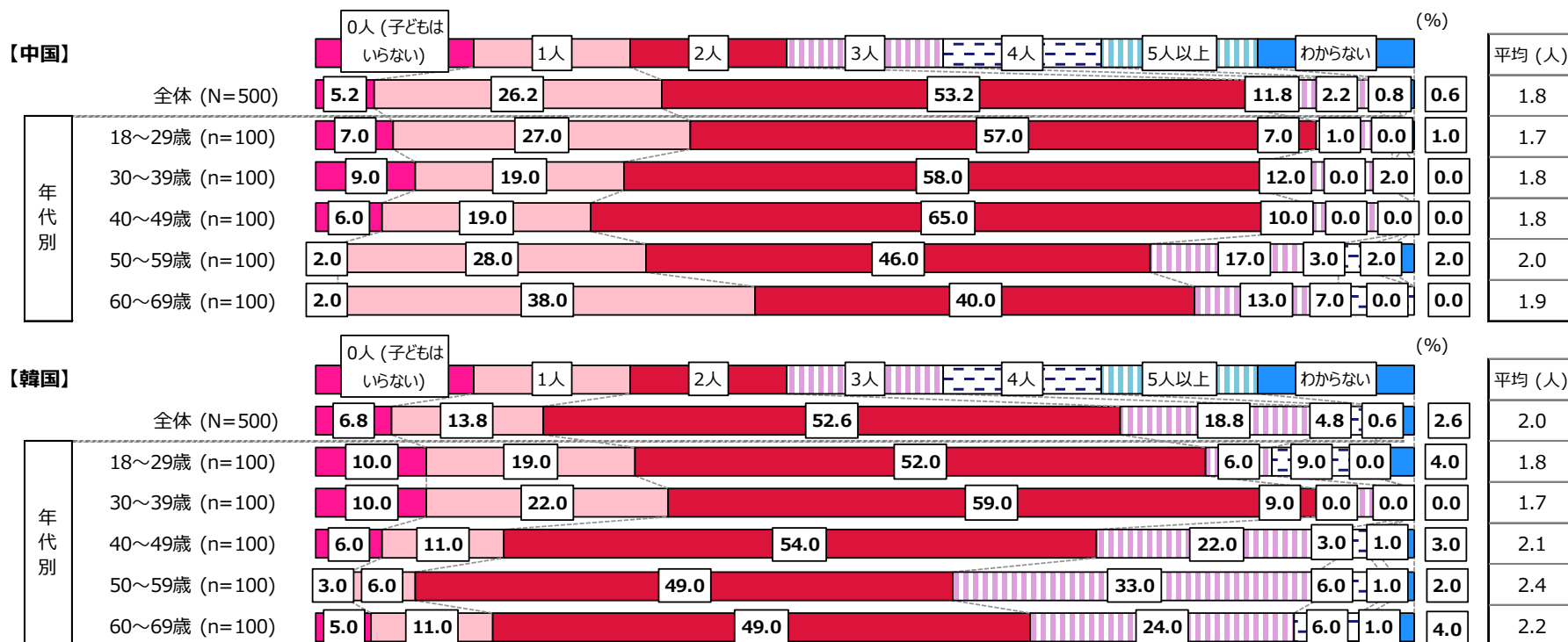


3-1.理想の子どもの数 (1) ご自身 ③

中国では40代以下で「2人」が6割前後と多く、平均は1.7～1.8人となっている。50代では「3人」の割合が2割弱と他の年代より高めで、平均が2.0人と最も多い。

韓国では30代以下で「1人」が2割前後となっており、平均は1.7～1.8人。40代以上では「3人」が2割を超え、50代では3割を超える。

Q8.あなたが自由に子どもを持ち、育てられるとしたら子どもの数は何人が理想ですか。(ひとつだけ)

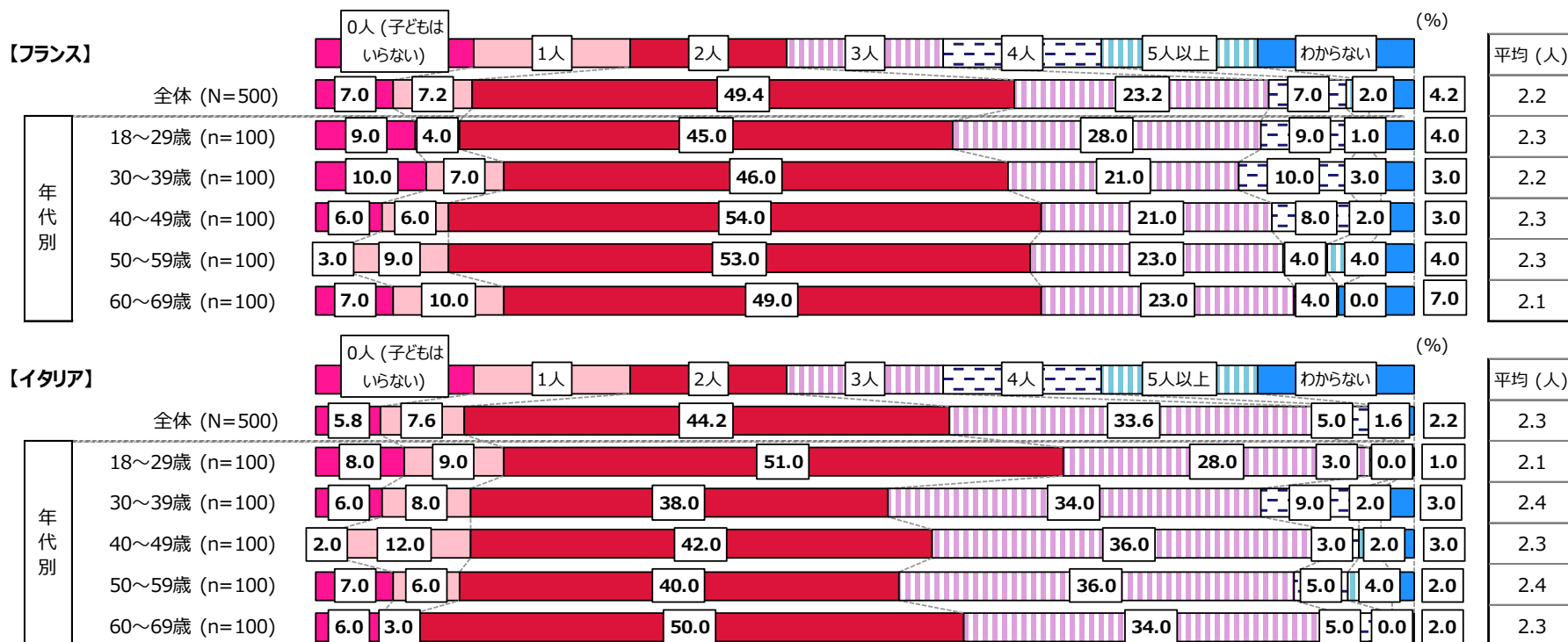


3-1.理想の子どもの数 (1) ご自身 ④

フランスではいずれの年代でも「2人」が5割前後、「3人」が2割台となっており、年代による差が小さい。

イタリアでは18～29歳で「2人」が5割を超え、平均が2.1人とやや少ない。30代以上では「3人」が3割を超える。

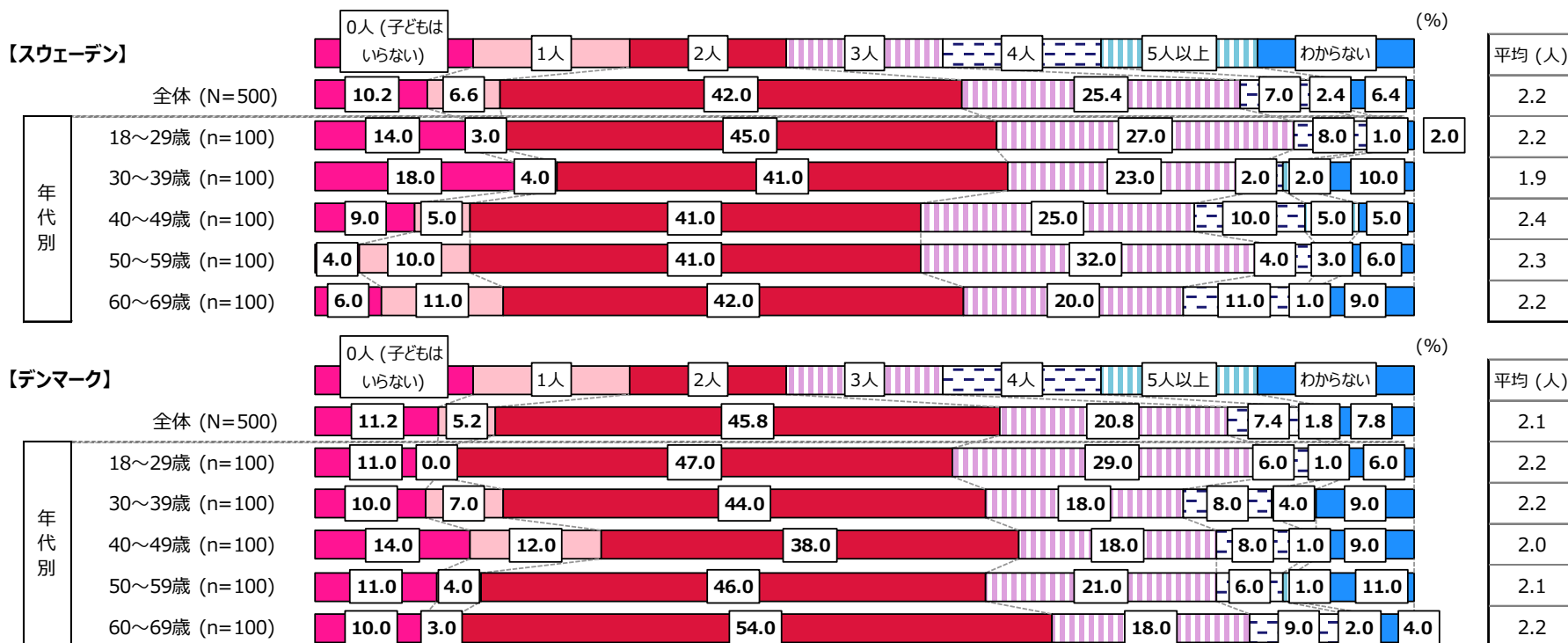
Q8.あなたが自由に子どもを持ち、育てられるとしたら子どもの数は何人が理想ですか。(ひとつだけ)



3-1.理想の子どもの数 (1) ご自身 ⑤

スウェーデンではすべての年代で「2人」が4割台で最も多いが、30代では「0人」が2割弱とやや多く、平均が2人を下回る。
 デンマークではいずれの年代でも平均が2.0~2.2人と差が小さいが、40代は他の年代より「1人」の割合が高めで、「2人」の割合が低い。

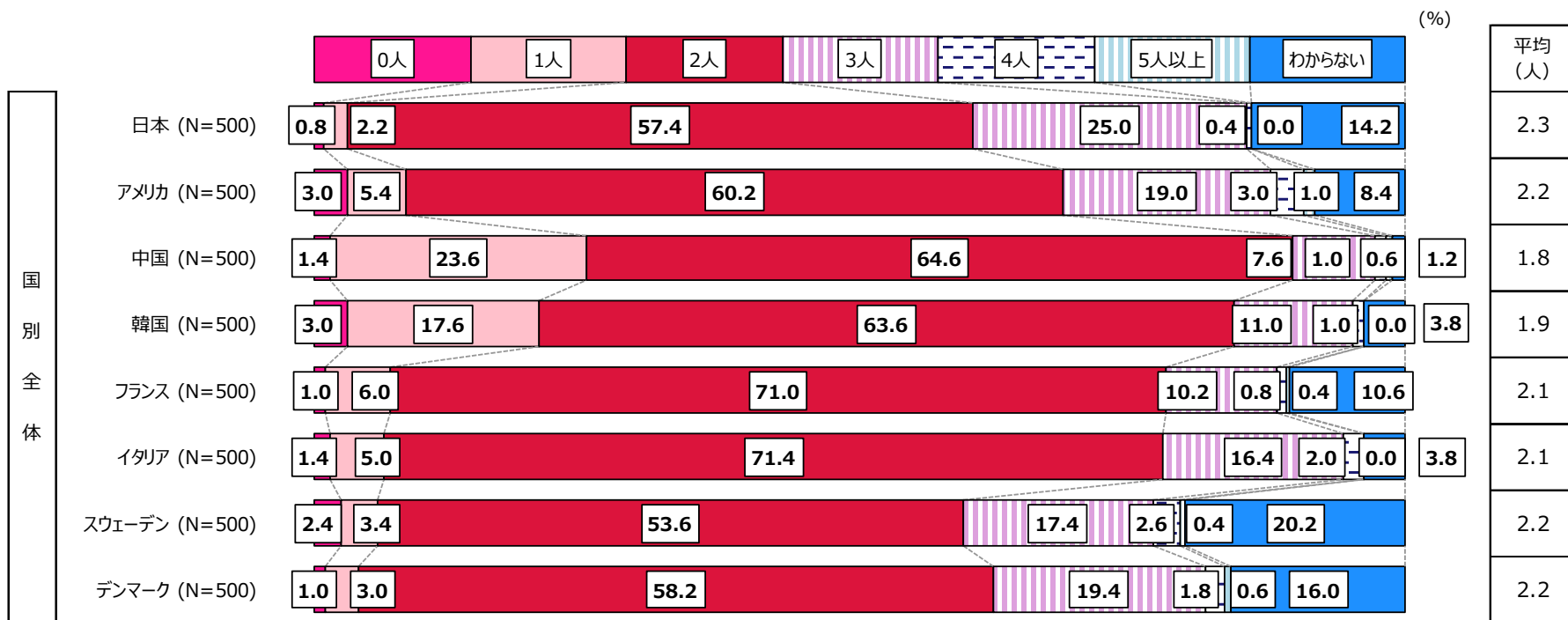
Q8.あなたが自由に子どもを持ち、育てられるとしたら子どもの数は何人が理想ですか。(ひとつだけ)



3-2.理想の子どもの数 (2) 一般的 ①

一般的な理想の子どもの数についてみると、日本では「2人」が57%、「3人」が25%で、平均は2.3人と8か国中最も多い。いずれの国でも「2人」が5割を超え最も多く、イタリア、フランスでは7割を超える。中国と韓国では「1人」が2割前後で平均人数が2人を下回る。

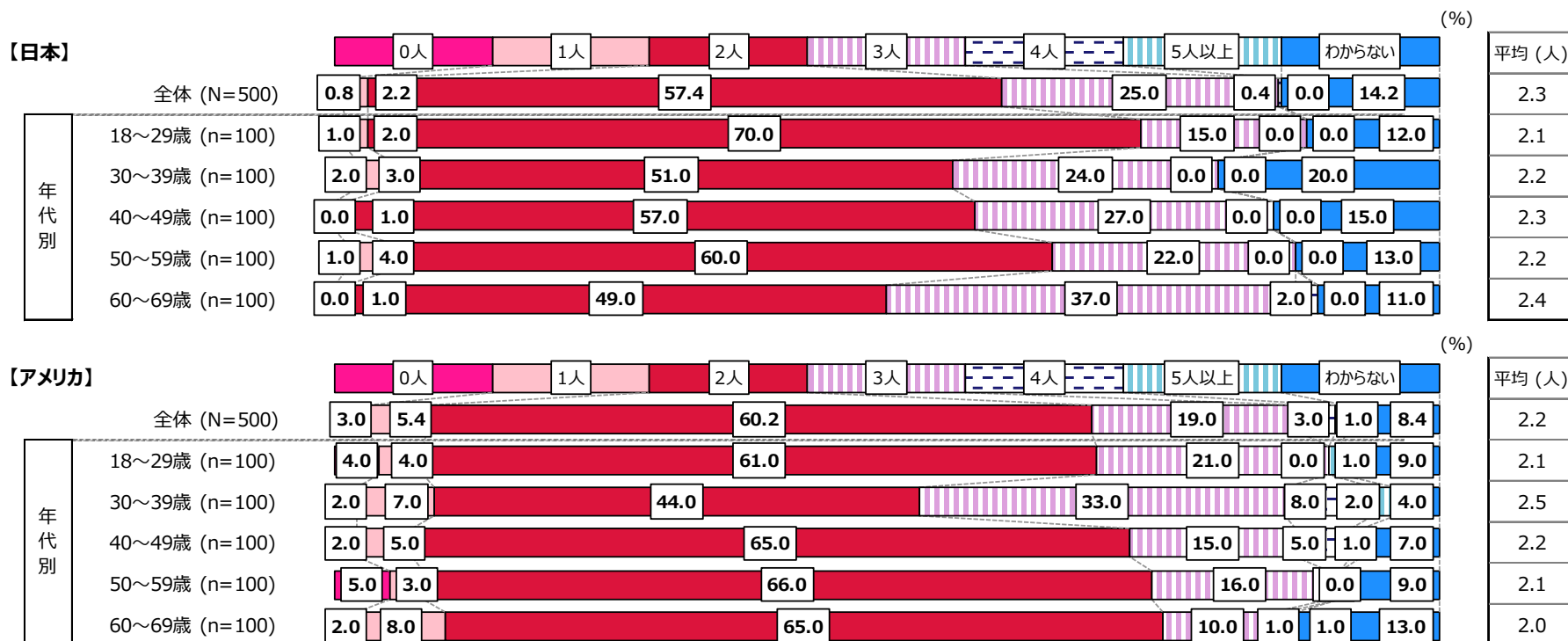
Q10.一般的に考えて、夫婦（カップル）に望ましい子どもの数は何人だと思いますか。（ひとつだけ）



3-2.理想の子どもの数 (2) 一般的 ②

国別・年代別で見ると、日本は18～29歳では「2人」が7割で、平均が2.1人とやや少ない。60代では「3人」が4割近い。
 アメリカでは30代で「3人」が3割を超え、平均が2.5人と最も多い。30代以外の年代では「2人」が6割台。

Q10. 一般的に考えて、夫婦（カップル）に望ましい子どもの数は何人だと思いますか。（ひとつだけ）

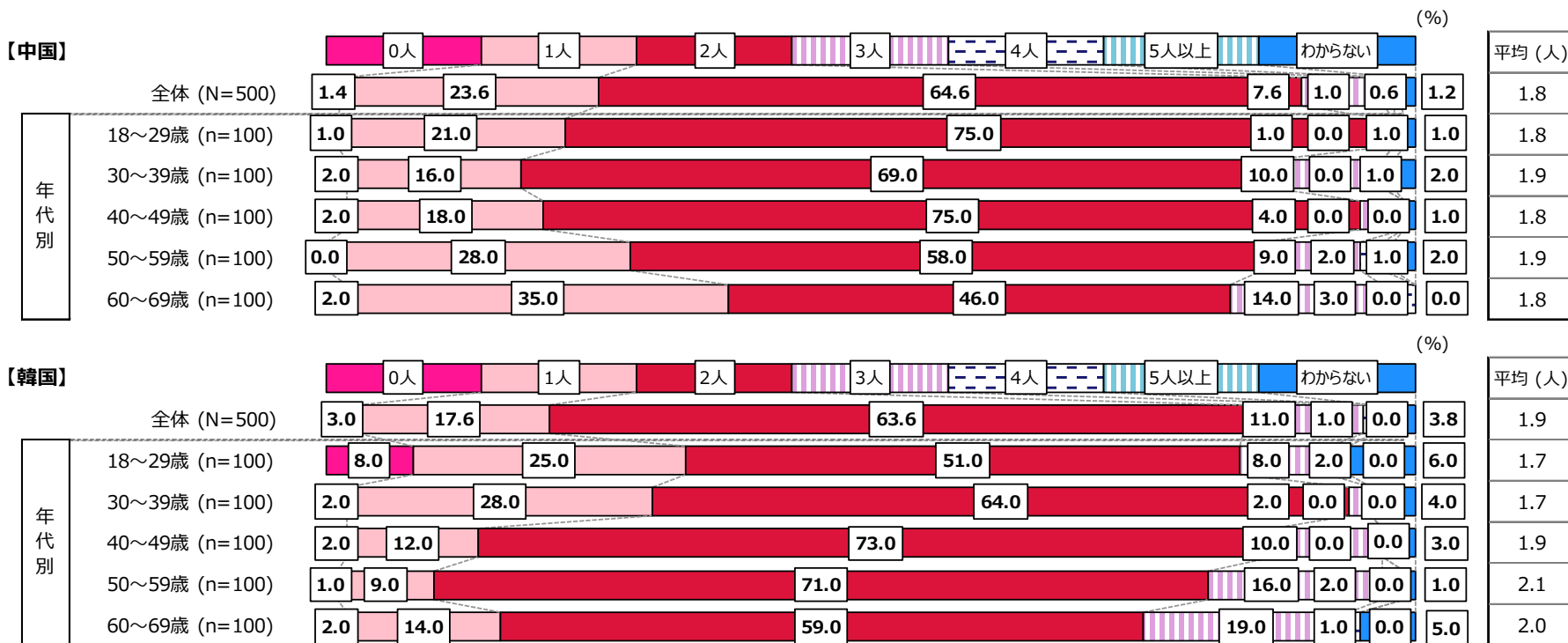


3-2.理想の子どもの数 (2) 一般的 ③

中国ではすべての年代で平均が2人を下回る。60代では「1人」が3割を超える。

韓国では30代以下で平均人数が1.7人と少なく、「1人」が25%以上を占める。40～50代では「2人」が7割を超える。

Q10. 一般的に考えて、夫婦（カップル）に望ましい子どもの数は何人だと思いますか。（ひとつだけ）

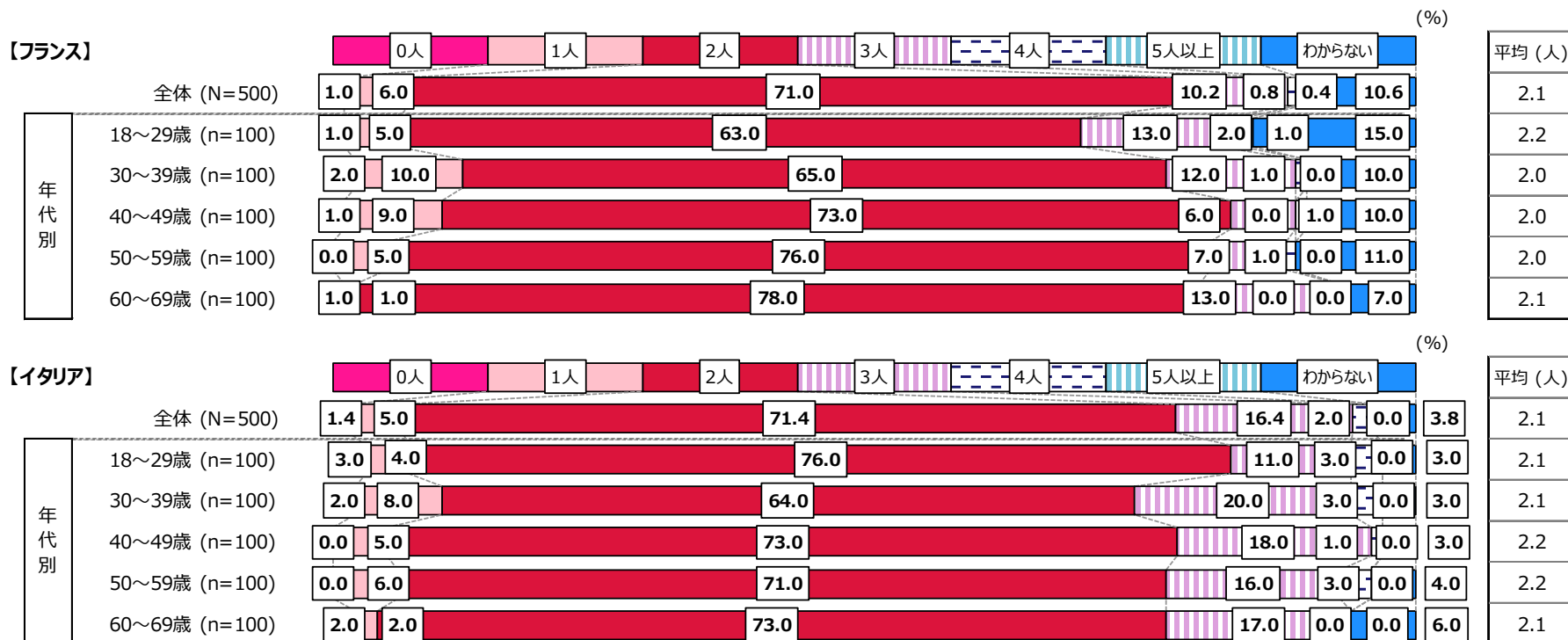


3-2.理想の子どもの数 (2) 一般的 ④

フランスではいずれの年代でも「2人」が6割を超え、40代以上では7割を超える。

イタリアではいずれの年代でも平均が2.1~2.2人と差が小さい。30代以外では「2人」が7割を超える。

Q10. 一般的に考えて、夫婦（カップル）に望ましい子どもの数は何人だと思いますか。（ひとつだけ）

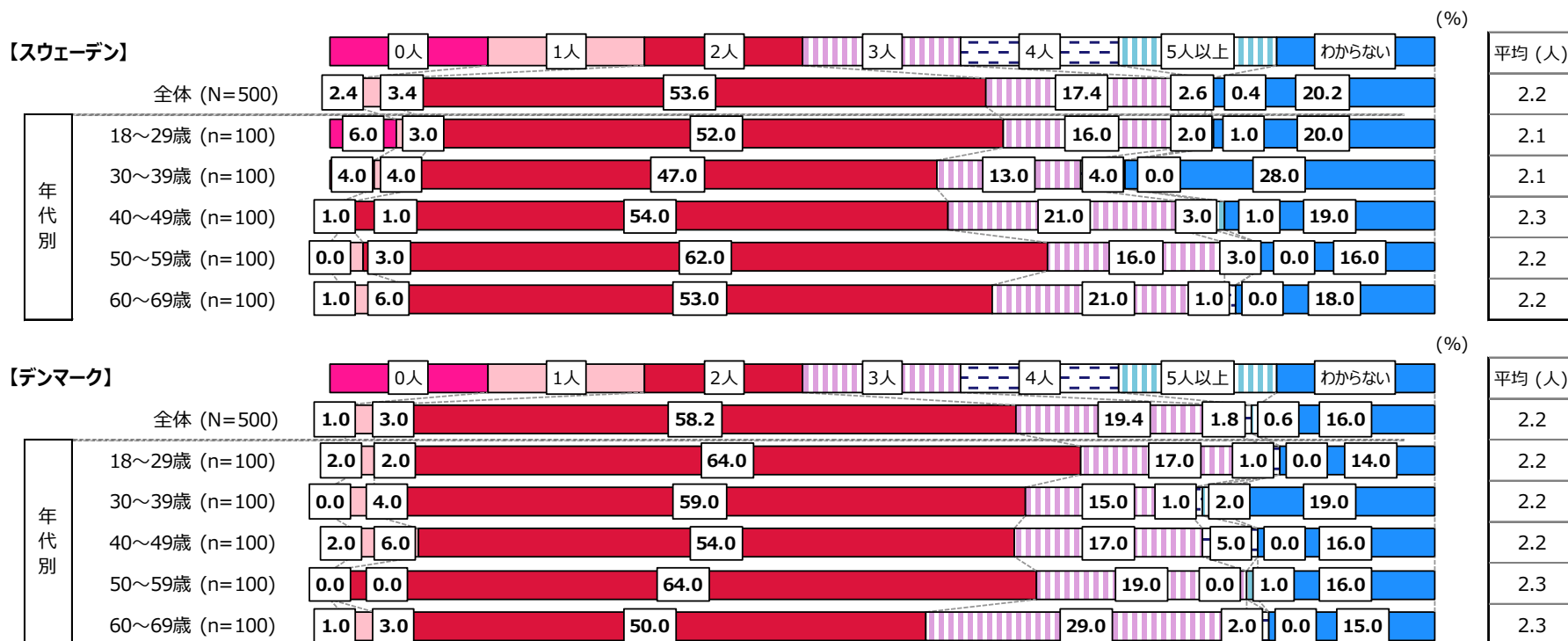


3-2.理想の子どもの数 (2) 一般的 ⑤

スウェーデンでは40代と60代で「3人」が2割強と多い。「わからない」が全体の2割を占め、30代では3割弱におよぶ。

デンマークではいずれの年代でも平均が2.2~2.3人と差が小さいが、60代では「3人」が3割弱を占める。

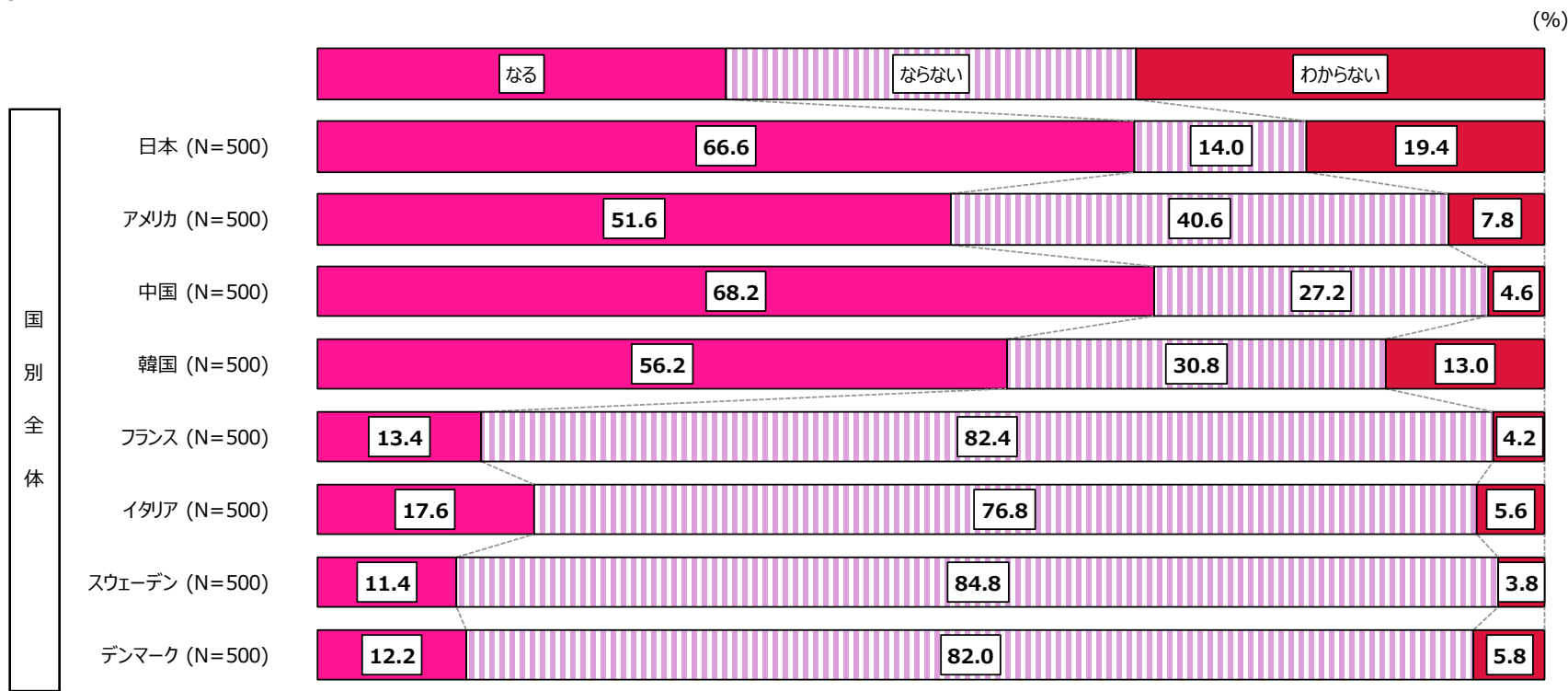
Q10. 一般的に考えて、夫婦（カップル）に望ましい子どもの数は何人だと思いますか。（ひとつだけ）



4-1. 婚外子の受容度 (1) ①

子どもを持つ場合に結婚が前提条件となるかについてみると、日本では「なる」の割合が67%と高く、「ならない」が14%と他の国に比べて低い。また「わからない」の回答も比較的多く、2割弱を占める。
 中国は日本と同様に「なる」が68%と高い。次いで韓国、アメリカで「なる」の割合が5割台と高い。一方、スウェーデン、フランス、デンマーク、イタリアでは「ならない」が8割前後に上り、国による意識の違いが鮮明になっている。

Q11. あなたが子どもを持つ場合、結婚はその前提条件になりますか。(ひとつだけ)

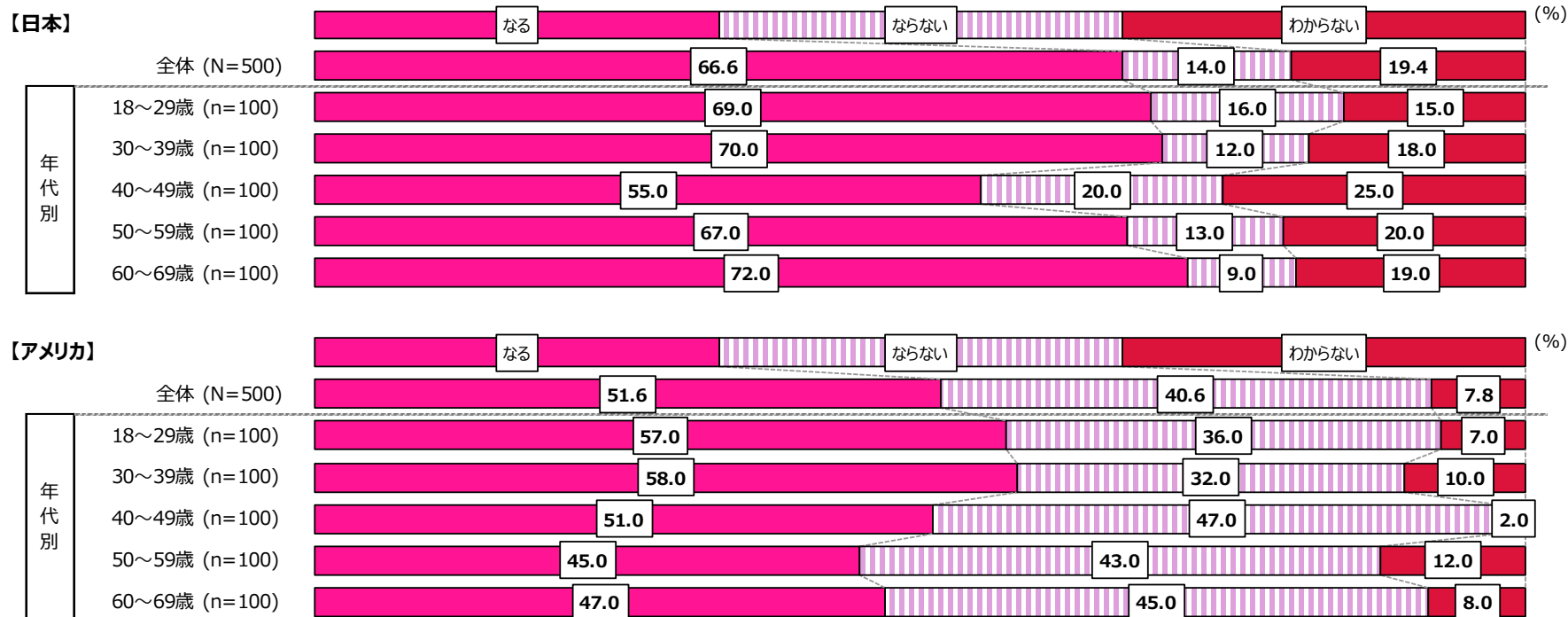


4-1. 婚外子の受容度 (1) ②

日本の年代別でみると、40代以外では「なる」が7割前後と高い。40代では「なる」が55%と他の年代より低く、「ならない」(20%)が他の年代より高いが、「わからない」(25%)という回答も多い。

アメリカでは年代が低いほど「なる」の割合が高い傾向で、30代以下では6割弱、50代以上では5割弱となっている。

Q11. あなたが子どもを持つ場合、結婚はその前提条件になりますか。(ひとつだけ)

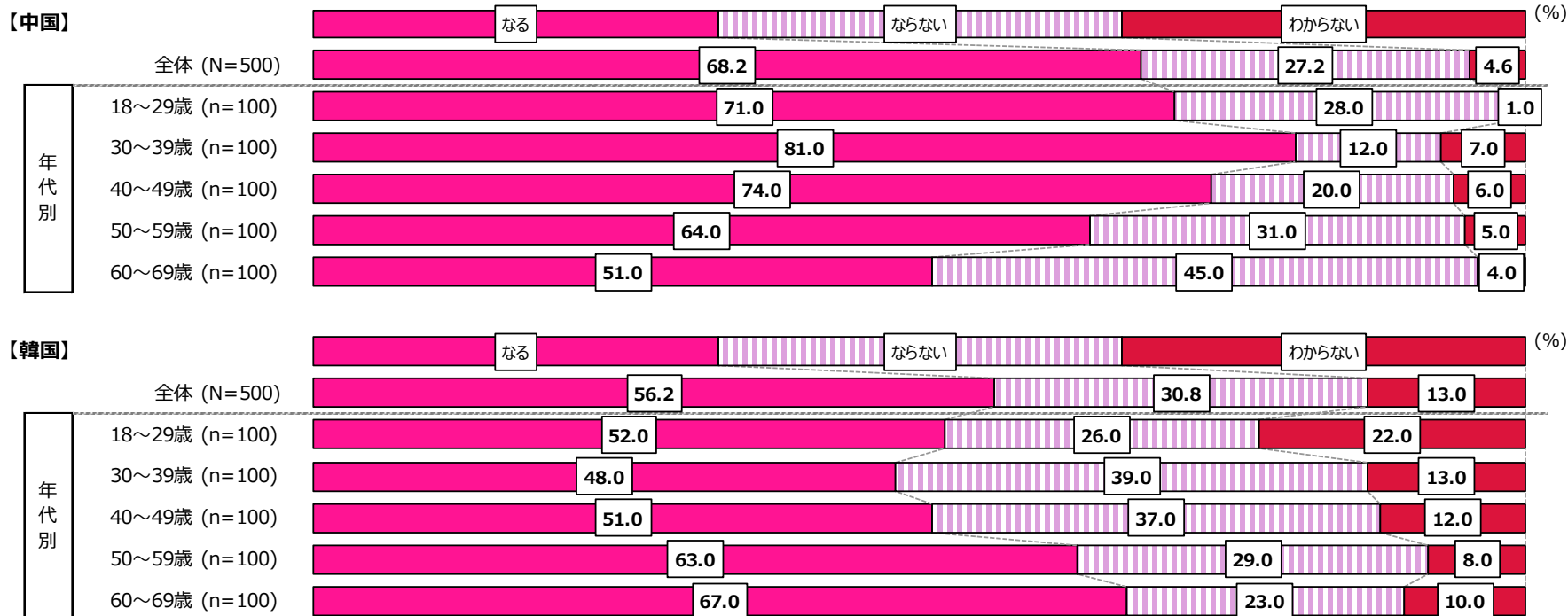


4-1. 婚外子の受容度 (1) ③

中国では30代で「なる」が8割強と最も高く、30代以上では年代が高いほど「なる」の割合が低くなっている。60代では「ならない」が4割を超える。

韓国では「なる」の割合が40代以下で5割前後、50代以上で6割台と差がみられる。

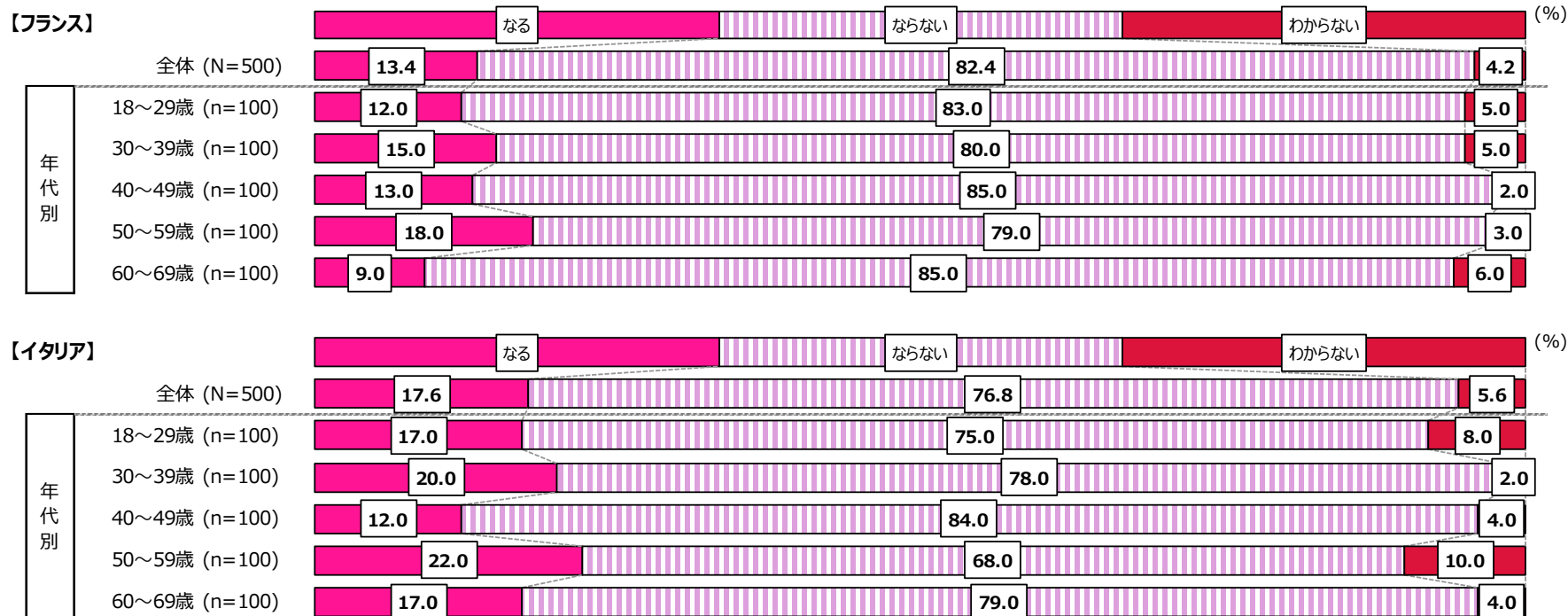
Q11. あなたが子どもを持つ場合、結婚はその前提条件になりますか。(ひとつだけ)



4-1. 婚外子の受容度 (1) ④

フランスではすべての年代で「ならない」が8割程度以上を占める。「なる」の割合は50代で最も高いが、2割を下回る。
 イタリアでは50代以外で「ならない」の割合が75%以上と高く、40代では8割を超える。50代、30代では「なる」が2割以上。

Q11. あなたが子どもを持つ場合、結婚はその前提条件になりますか。(ひとつだけ)



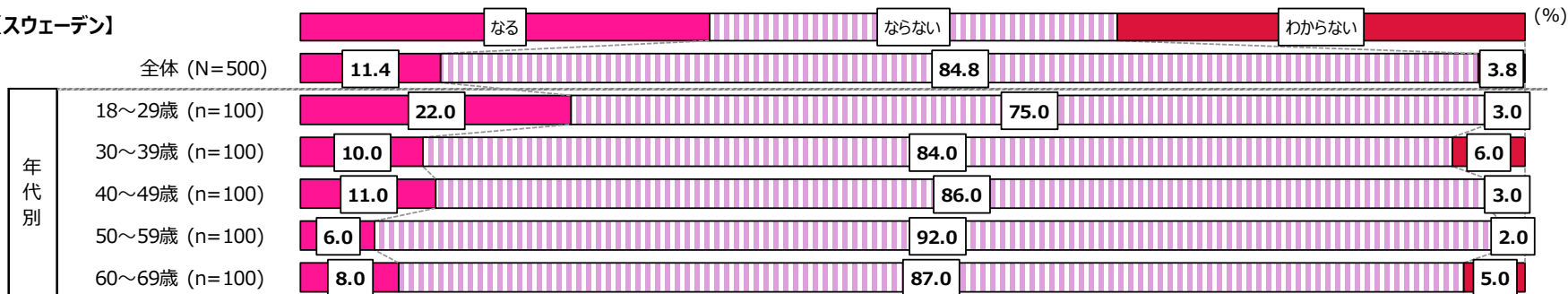
4-1. 婚外子の受容度 (1) ⑤

スウェーデンではすべての年代で「ならない」が75%以上と高く、50代では9割を超える。18～29歳では「なる」が2割を超え、他の年代より高い。

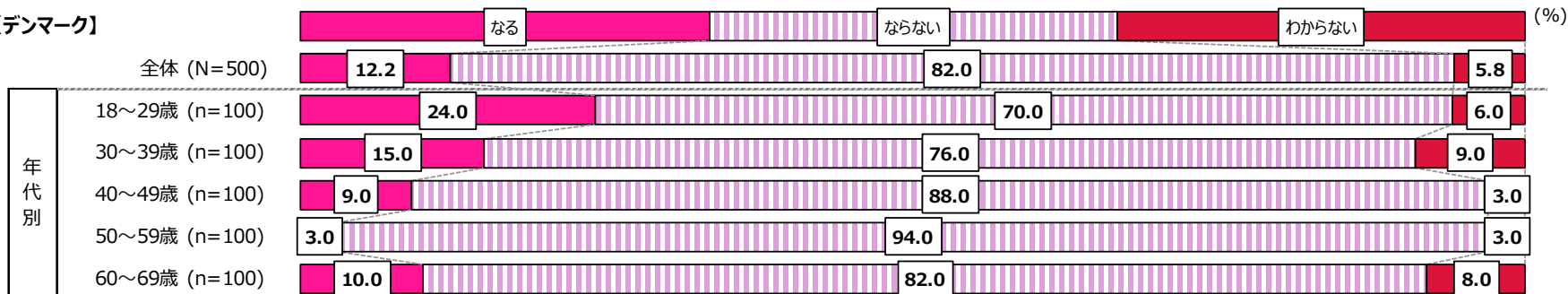
デンマークではすべての年代で「ならない」が7割以上と高く、50代では9割を超える。18～29歳では「なる」が2割を超え、他の年代より高い。

Q11. あなたが子どもを持つ場合、結婚はその前提条件になりますか。(ひとつだけ)

【スウェーデン】



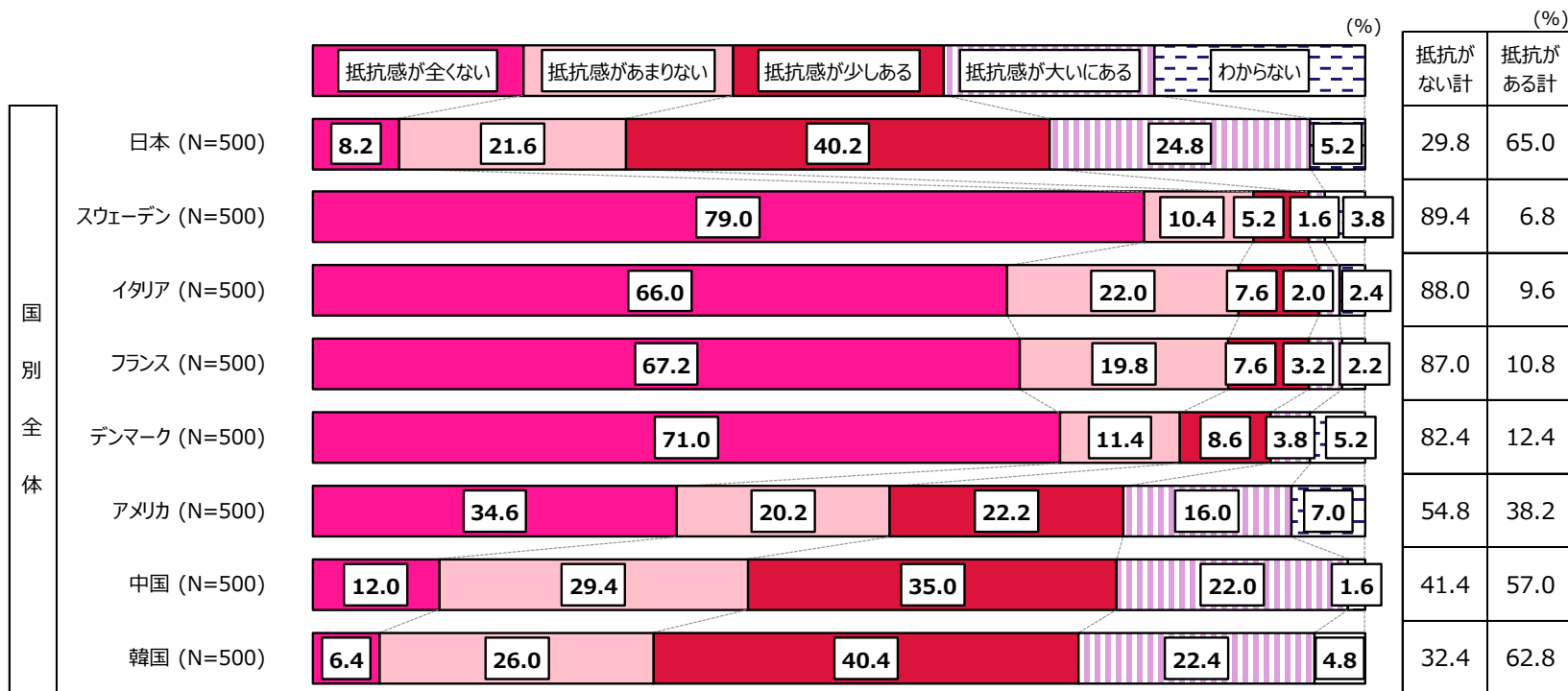
【デンマーク】



4-2. 婚外子の受容度 (2) ①

未婚のまま子どもを持つことについてみると、日本では「抵抗がある計」が65%と8か国中最も高く、否定的な反応が多い。ほかに韓国、中国でも「抵抗がある計」が6割前後と高い。
 一方、スウェーデンでは「抵抗感が全くない」が8割弱に上り、「抵抗がない計」が9割弱と高い。イタリア、フランス、デンマークでも「抵抗感が全くない」が7割前後で、「抵抗がない計」が8割台と高い。アメリカでは「抵抗がない計」が5割強、「抵抗がある計」が4割弱となっている。

Q12. 未婚のまま子どもを持つことについて、一般的に考えてどう思いますか。(ひとつだけ)



※日本以外の国は「抵抗がない計」の高い順に掲載

※「抵抗がない計」：「抵抗感が全くない」「抵抗感があまりない」の合計

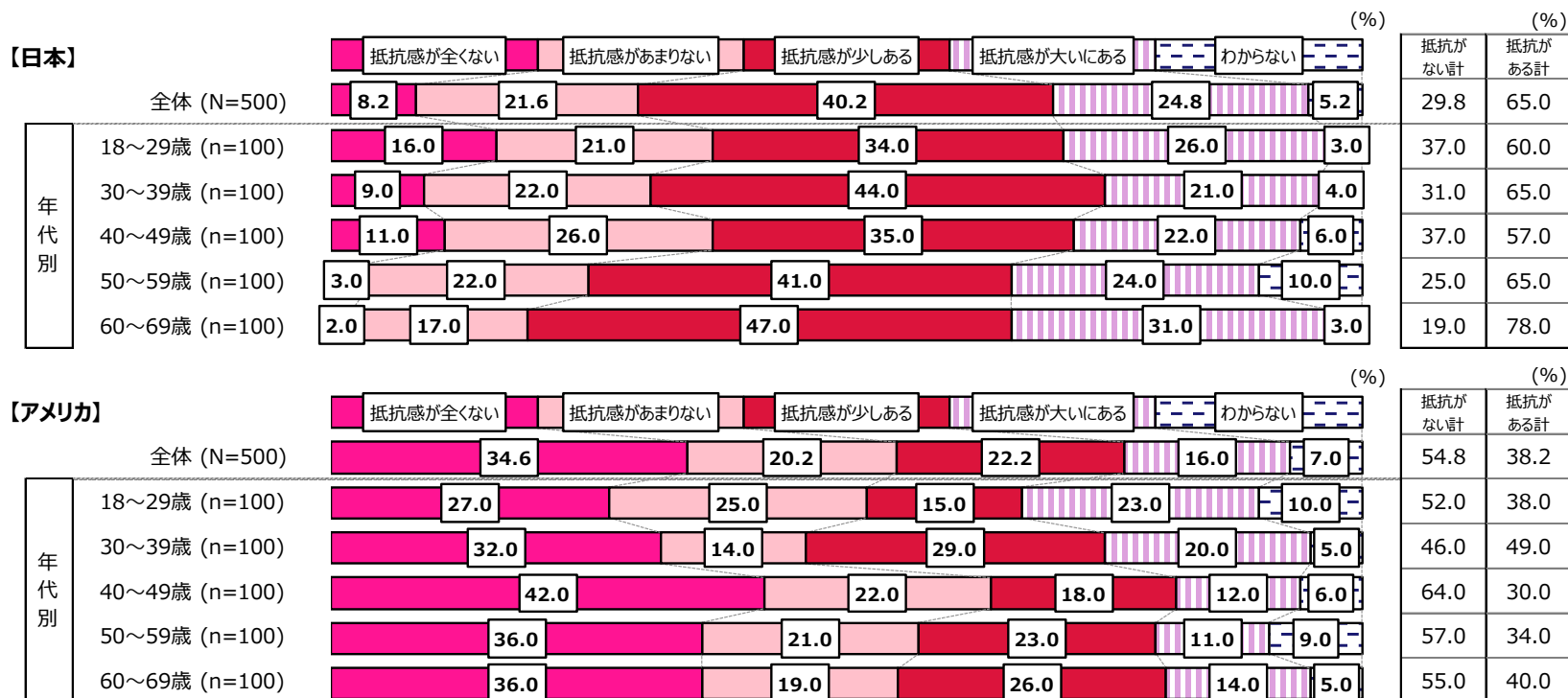
※「抵抗がある計」：「抵抗感が少しある」「抵抗感が大いにある」の合計

4-2. 婚外子の受容度 (2) ②

日本の年代別でみると、いずれの年代でも「抵抗がある計」が過半数を占め、60代で8割弱と最も高い。18～29歳、40代では「抵抗がない計」が4割弱と他の年代より高い。

アメリカでは40代で「抵抗がない計」が最も高く、6割を超える。「抵抗がある計」は30代で49%と高く、「抵抗がない計」(46%)と拮抗している。

Q12. 未婚のまま子どもを持つことについて、一般的に考えてどう思いますか。(ひとつだけ)



※「抵抗がない計」：「抵抗感が全くない」「抵抗感があまりない」の合計

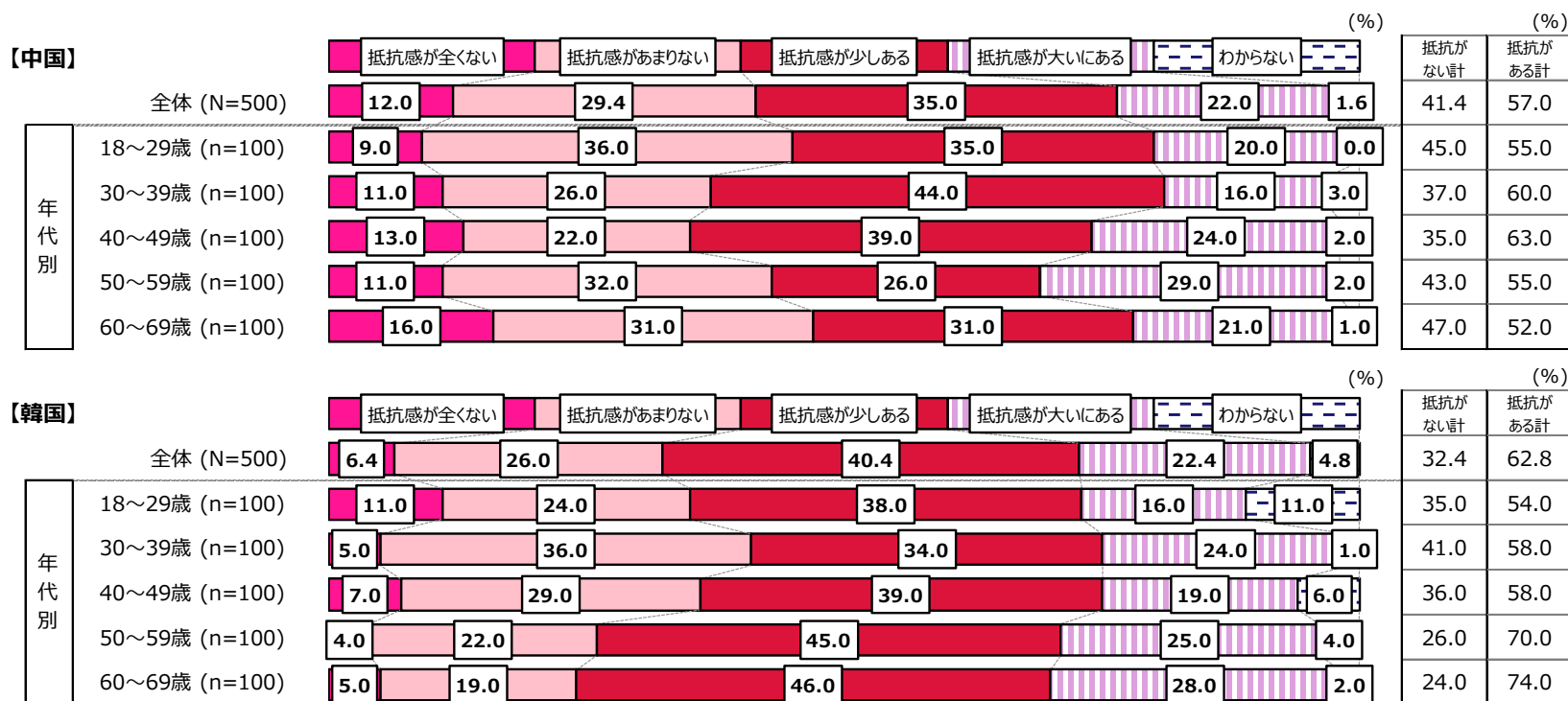
※「抵抗がある計」：「抵抗感が少しある」「抵抗感が大いにある」の合計

4-2. 婚外子の受容度 (2) ③

中国ではいずれの年代でも「抵抗がある計」が5～6割程度となっている。60代では「抵抗がない計」と「抵抗がある計」がほぼ半々。

韓国では年代が高いほど「抵抗がある計」が高く、50代以上では7割以上。「抵抗がない計」は30代で最も高く4割強。

Q12. 未婚のまま子どもを持つことについて、一般的に考えてどう思いますか。(ひとつだけ)



※「抵抗がない計」：「抵抗感が全くない」「抵抗感があまりない」の合計

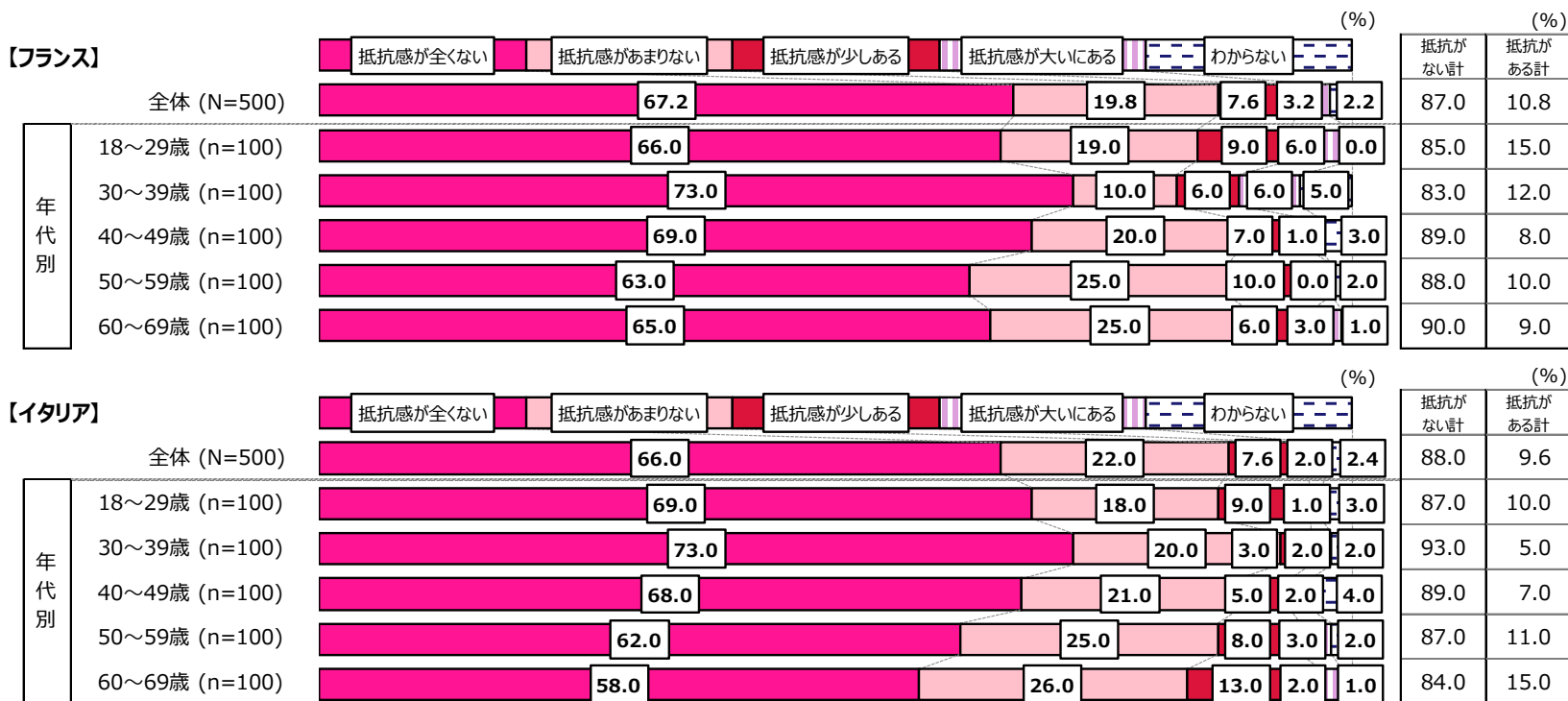
※「抵抗がある計」：「抵抗感が少しある」「抵抗感が大いにある」の合計

4-2. 婚外子の受容度 (2) ④

フランスではすべての年代で「抵抗がない計」が8割を超える。30代で「抵抗感が全くない」の割合が7割強と最も高い。

イタリアもすべての年代で「抵抗がない計」が8割を超える。30代では「抵抗感が全くない」が7割を超え、「抵抗がない計」は9割を超える。

Q12. 未婚のまま子どもを持つことについて、一般的に考えてどう思いますか。(ひとつだけ)



※「抵抗がない計」：「抵抗感が全くない」「抵抗感があまりない」の合計

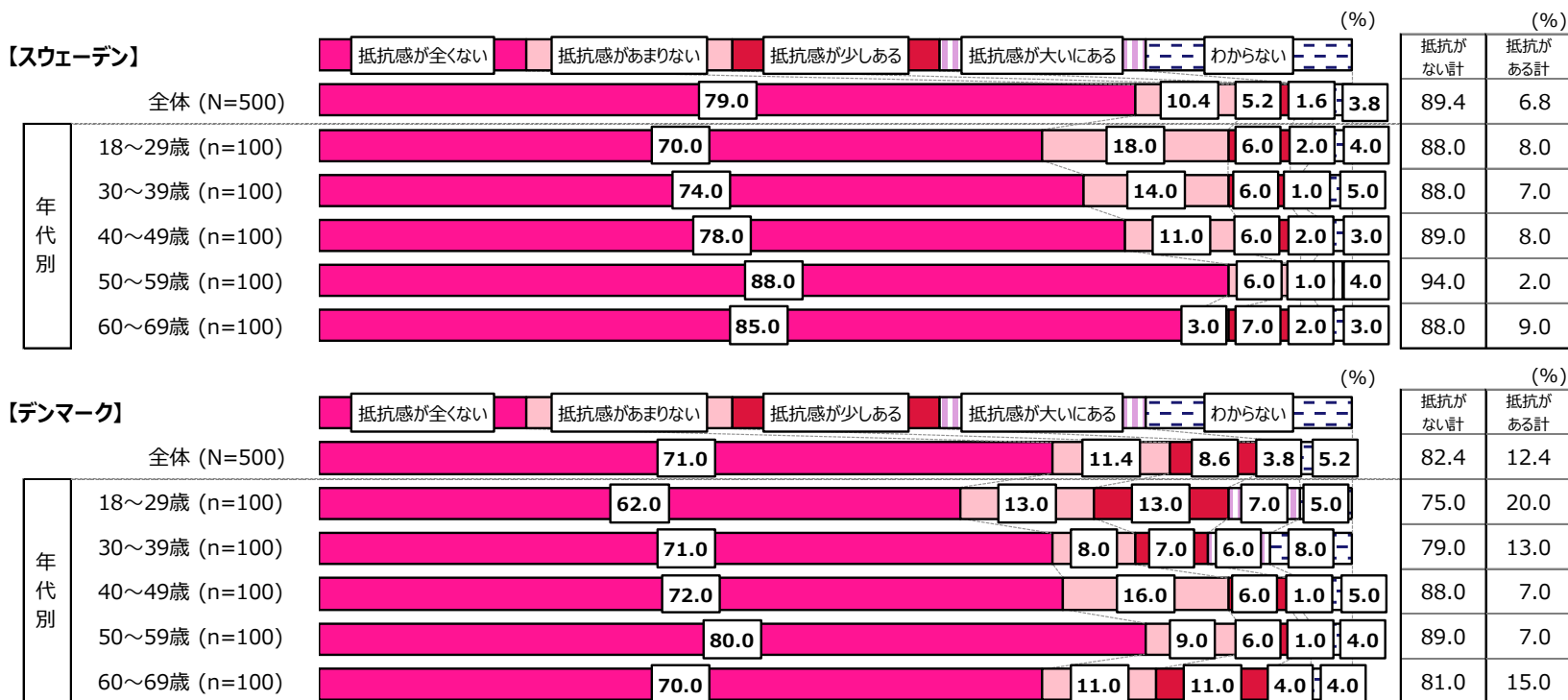
※「抵抗がある計」：「抵抗感が少しある」「抵抗感が大いにある」の合計

4-2. 婚外子の受容度 (2) ⑤

スウェーデンではすべての年代で「抵抗がない計」が9割前後に上る。50代以上では「抵抗感が全くない」の割合が8割を超える。

デンマークではすべての年代で「抵抗がない計」が75%以上と高く、40～50代では9割近い。18～29歳では「抵抗がある計」が2割と他の年代より高い。

Q12. 未婚のまま子どもを持つことについて、一般的に考えてどう思いますか。(ひとつだけ)



※「抵抗がない計」：「抵抗感が全くない」「抵抗感があまりない」の合計

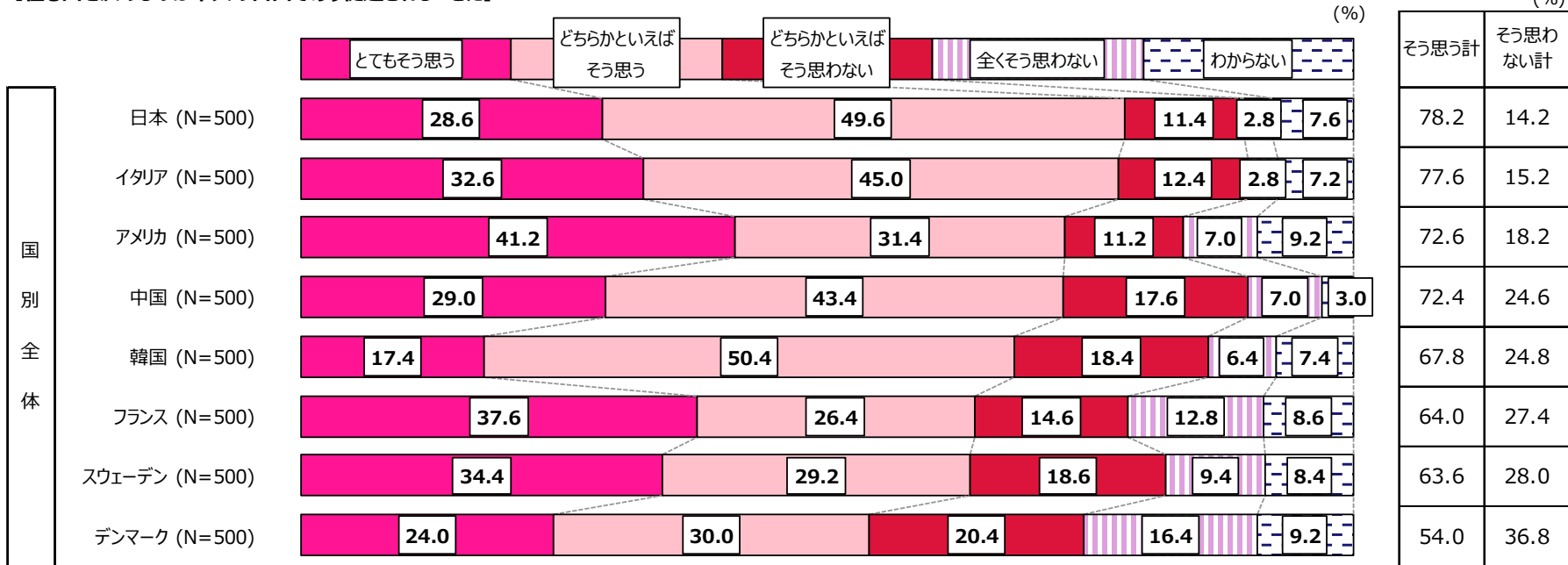
※「抵抗がある計」：「抵抗感が少しある」「抵抗感が大いにある」の合計

5.少子化対策としての移民受け入れについて (1)

【住む国を決めるのは本人の自由であり促進されるべきだ】について、日本では「そう思う計」が8割弱で、8か国中最も高い。イタリアも日本と同水準で「そう思う計」が高く、次いでアメリカ、中国で7割を超える。一方、デンマークでは「そう思う計」が5割強にとどまり、「そう思わない計」が3割を超える。

Q13. 移民・難民問題が国際社会の大きなテーマとなる中、国連人口部は少子高齢化によって生ずる人口減少や生産年齢減少対策として外国人を受け入れる補充移民 (Replacement Migration) に関する研究結果を公表しています。あなたは次にあげるこれらの考えについて、どう思いますか。(それぞれひとつずつ)

【住む国を決めるのは本人の自由であり促進されるべきだ】



※日本以外の国は「そう思う計」の高い順に掲載

※「そう思う計」: 「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

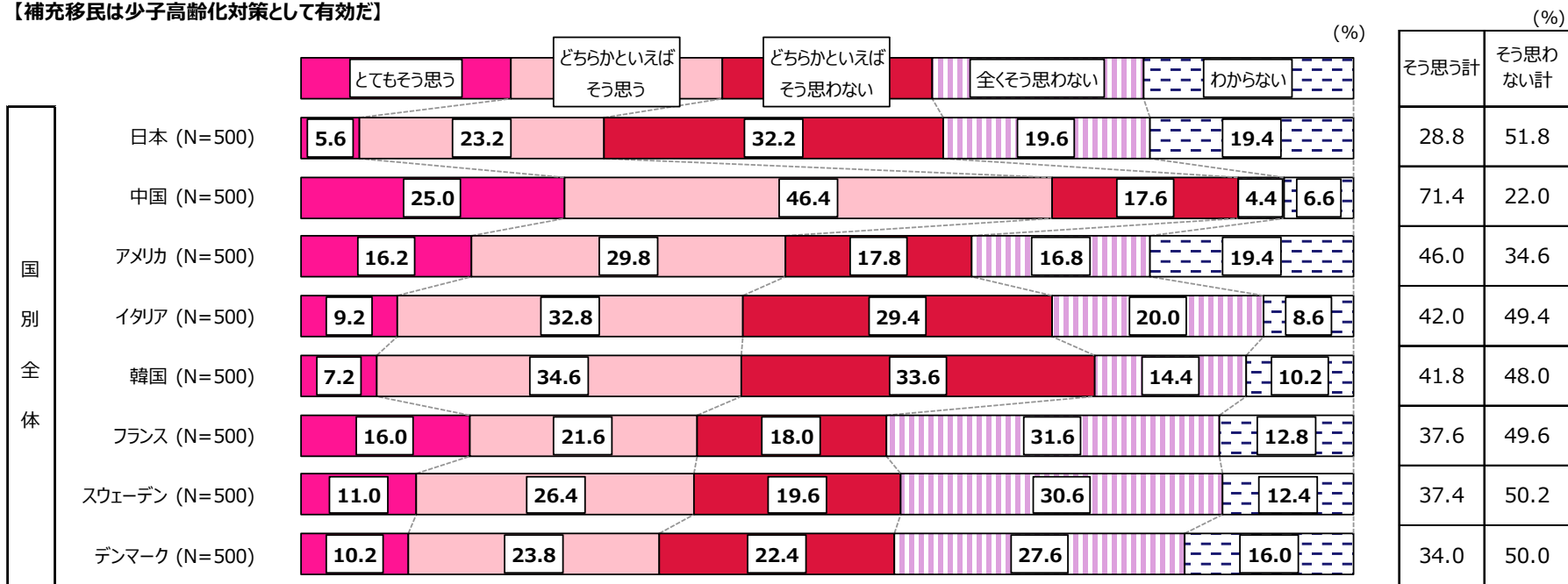
※「そう思わない計」: 「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の合計

5.少子化対策としての移民受け入れについて (2)

【補充移民は少子高齢化対策として有効だ】について、日本では「そう思う計」は3割弱で、8か国中最も低く、「そう思わない計」が半数を超える。中国では「そう思う計」が7割強と突出して高い。次いでアメリカ、イタリア、韓国で「そう思う計」が4割台となっている。

Q13. 移民・難民問題が国際社会の大きなテーマとなる中、国連人口部は少子高齢化によって生ずる人口減少や生産年齢減少対策として外国人を受け入れる補充移民 (Replacement Migration) に関する研究結果を発表しています。あなたは次にあげるこれらの考えについて、どう思いますか。(それぞれひとつずつ)

【補充移民は少子高齢化対策として有効だ】



※日本以外の国は「そう思う計」の高い順に掲載

※「そう思う計」: 「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

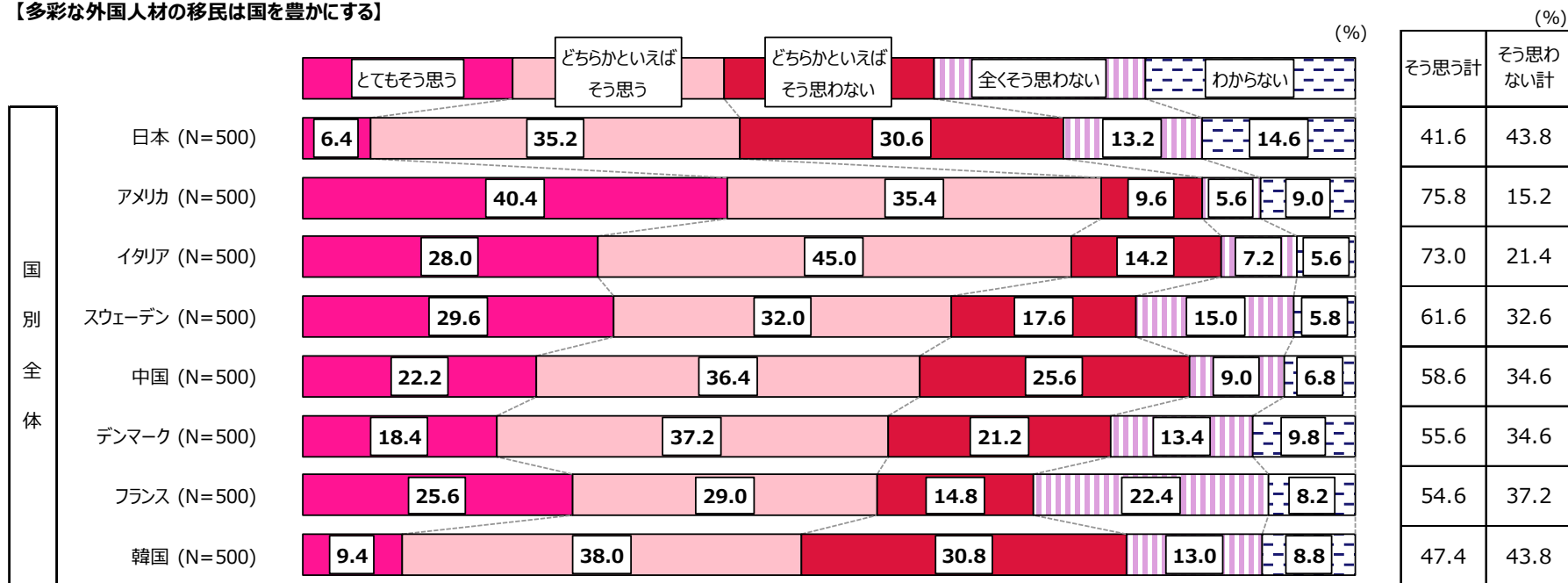
※「そう思わない計」: 「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の合計

5.少子化対策としての移民受け入れについて (3)

【多彩な外国人材の移民は国を豊かにする】について、日本では「そう思う計」は4割強で、8か国中最も低い。また「そう思わない計」が「そう思う計」を上回るのは日本のみ。アメリカ、イタリアでは「そう思う計」が7割を超える。次いでスウェーデン、中国で6割前後。

Q13. 移民・難民問題が国際社会の大きなテーマとなる中、国連人口部は少子高齢化によって生ずる人口減少や生産年齢減少対策として外国人を受け入れる補充移民 (Replacement Migration) に関する研究結果を発表しています。あなたは次にあげるこれらの考えについて、どう思いますか。(それぞれひとつずつ)

【多彩な外国人材の移民は国を豊かにする】



※日本以外の国は「そう思う計」の高い順に掲載

※「そう思う計」: 「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

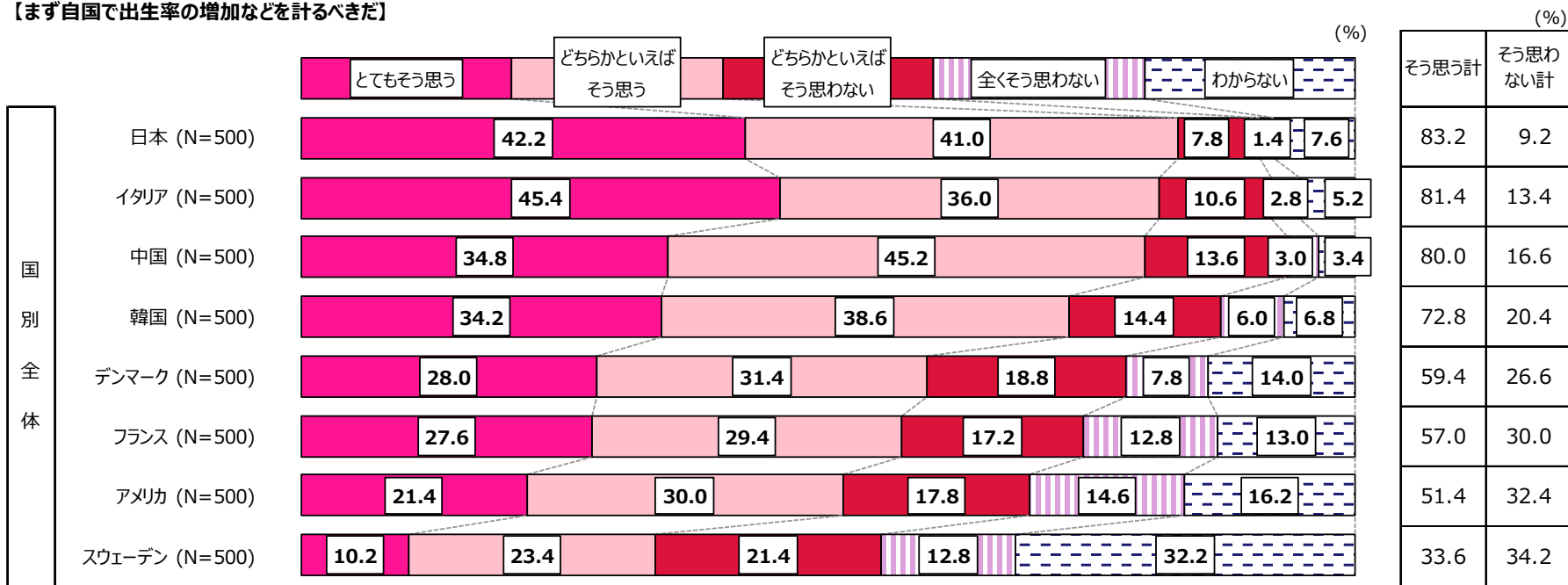
※「そう思わない計」: 「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の合計

5.少子化対策としての移民受け入れについて (4)

【まず自国で出生率の増加などを計るべきだ】について、日本では「そう思う計」が8割強で、8か国中最も高く、「そう思わない計」は1割に満たない。イタリア、中国でも「そう思う計」が8割以上と高い。一方、スウェーデンでは「そう思う計」と「そう思わない計」がともに34%で、「わからない」も32%と回答が分散している。

Q13. 移民・難民問題が国際社会の大きなテーマとなる中、国連人口部は少子高齢化によって生ずる人口減少や生産年齢減少対策として外国人を受け入れる補充移民 (Replacement Migration) に関する研究結果を発表しています。あなたは次にあげるこれらの考えについて、どう思いますか。(それぞれひとつずつ)

【まず自国で出生率の増加などを計るべきだ】



※日本以外の国は「そう思う計」の高い順に掲載

※「そう思う計」：「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

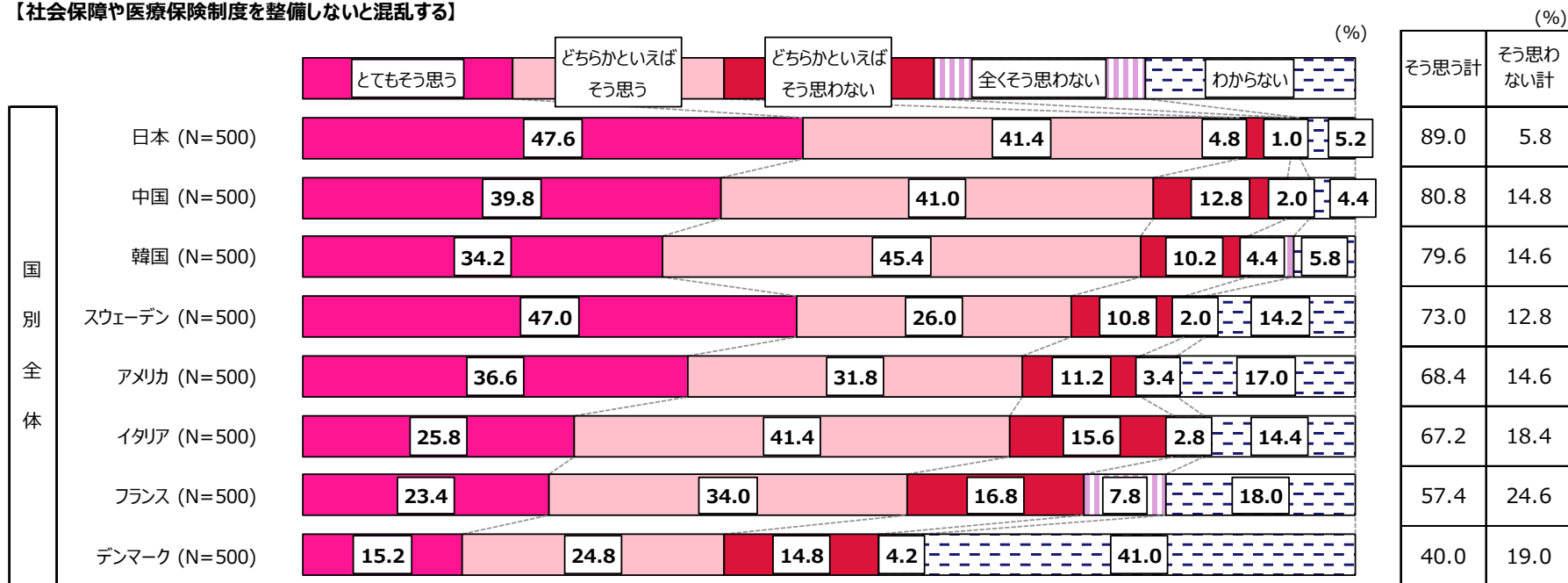
※「そう思わない計」：「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の合計

5.少子化対策としての移民受け入れについて (5)

【社会保障や医療保険制度を整備しないと混乱する】について、日本では「そう思う計」が9割弱に上り、8か国中最も高い。次いで中国、韓国で「そう思う計」が約8割。一方、デンマークでは「そう思う計」が4割にとどまるが、「わからない」が4割強を占める。

Q13. 移民・難民問題が国際社会の大きなテーマとなる中、国連人口部は少子高齢化によって生ずる人口減少や生産年齢減少対策として外国人を受け入れる補充移民 (Replacement Migration) に関する研究結果を発表しています。あなたは次にあげるこれらの考えについて、どう思いますか。(それぞれひとつずつ)

【社会保障や医療保険制度を整備しないと混乱する】



※日本以外の国は「そう思う計」の高い順に掲載

※「そう思う計」：「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

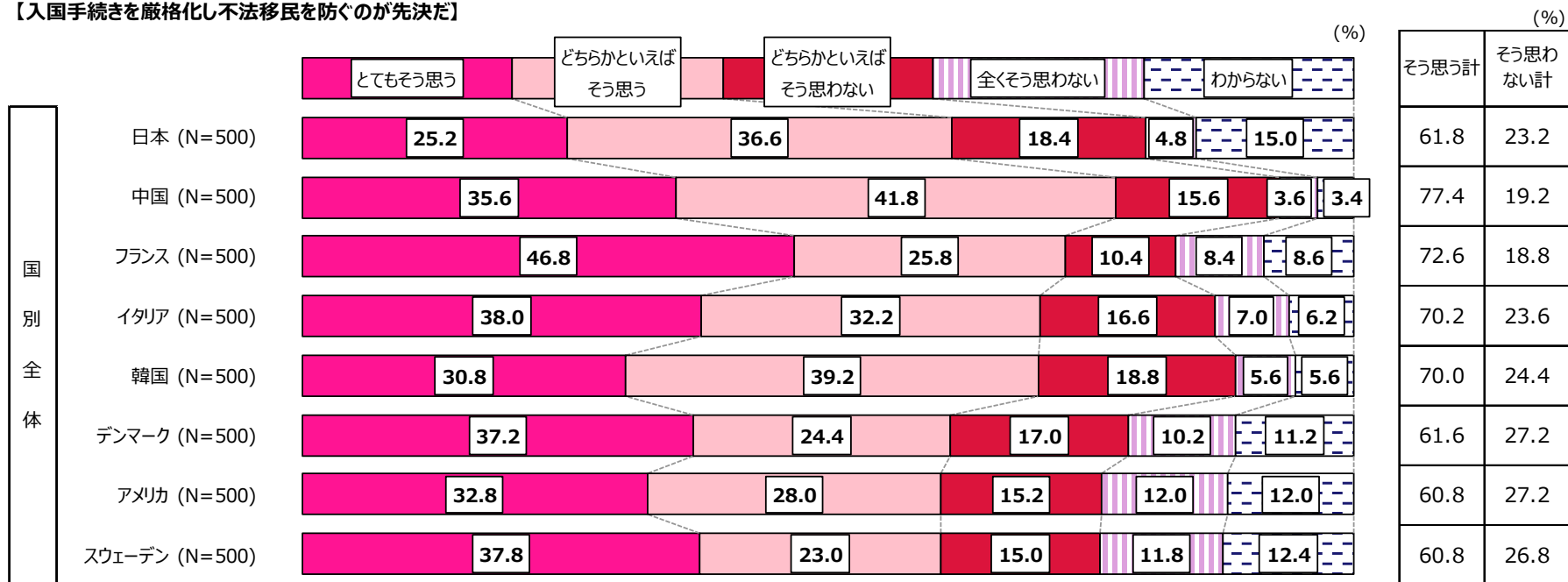
※「そう思わない計」：「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の合計

5.少子化対策としての移民受け入れについて (6)

【入国手続きを厳格化し不法移民を防ぐのが先決だ】について、日本では「そう思う計」が6割強で、デンマーク、アメリカ、スウェーデンと同水準。他の4か国では「そう思う計」が7割以上で、中国で8割弱と最も高い。

Q13. 移民・難民問題が国際社会の大きなテーマとなる中、国連人口部は少子高齢化によって生ずる人口減少や生産年齢減少対策として外国人を受け入れる補充移民 (Replacement Migration) に関する研究結果を公表しています。あなたは次にあげるこれらの考えについて、どう思いますか。(それぞれひとつずつ)

【入国手続きを厳格化し不法移民を防ぐのが先決だ】



※日本以外の国は「そう思う計」の高い順に掲載

※「そう思う計」: 「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

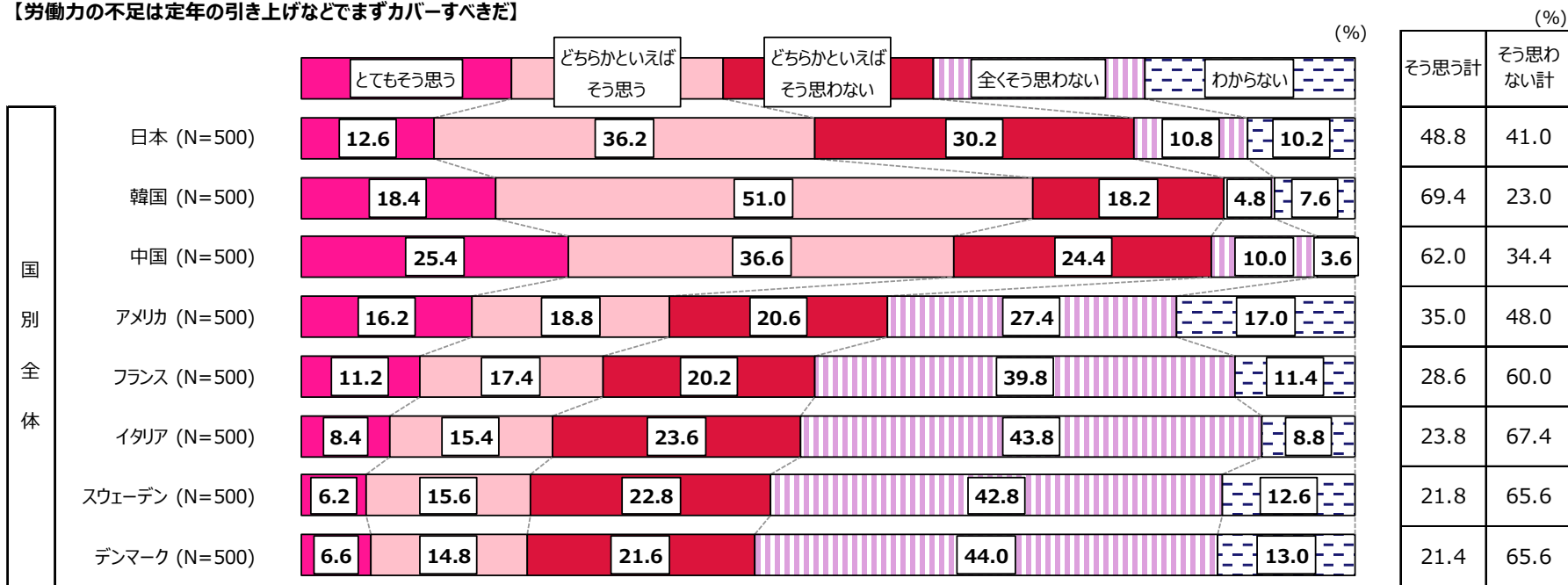
※「そう思わない計」: 「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の合計

5.少子化対策としての移民受け入れについて (7)

【労働力の不足は定年の引き上げなどでまずカバーすべきだ】について、日本では「そう思う計」が5割弱、「そう思わない計」が4割強。韓国、中国では「そう思う計」が6割を超えて高く、日本を上回る。デンマーク、スウェーデン、イタリア、フランスでは「そう思う計」が2割台にとどまり、「そう思わない計」が6割以上と高い。

Q13. 移民・難民問題が国際社会の大きなテーマとなる中、国連人口部は少子高齢化によって生ずる人口減少や生産年齢減少対策として外国人を受け入れる補充移民 (Replacement Migration) に関する研究結果を発表しています。あなたは次にあげるこれらの考えについて、どう思いますか。(それぞれひとつずつ)

【労働力の不足は定年の引き上げなどでまずカバーすべきだ】



※日本以外の国は「そう思う計」の高い順に掲載

※「そう思う計」: 「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

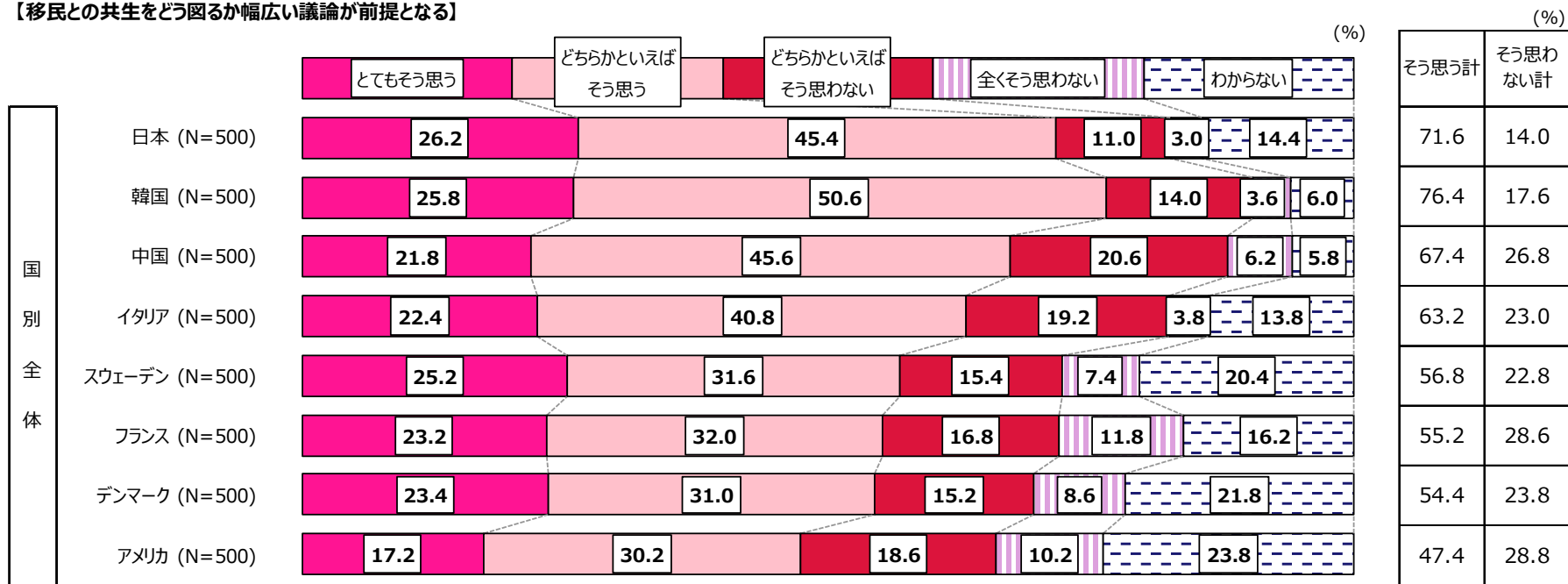
※「そう思わない計」: 「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の合計

5.少子化対策としての移民受け入れについて (8)

【移民との共生をどう図るか幅広い議論が前提となる】について、日本では「そう思う計」が7割強で、韓国(76%)に次いで高い。一方、アメリカでは「そう思う計」が5割弱にとどまる。アメリカは「わからない」の回答も2割以上と多く、スウェーデンやデンマークも同様である。

Q13. 移民・難民問題が国際社会の大きなテーマとなる中、国連人口部は少子高齢化によって生ずる人口減少や生産年齢減少対策として外国人を受け入れる補充移民 (Replacement Migration) に関する研究結果を発表しています。あなたは次にあげるこれらの考えについて、どう思いますか。(それぞれひとつずつ)

【移民との共生をどう図るか幅広い議論が前提となる】



※日本以外の国は「そう思う計」の高い順に掲載

※「そう思う計」: 「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

※「そう思わない計」: 「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の合計